

Title	東京歯科大学研究年報 : 平成18年度
Journal	東京歯科大学研究年報, (): -
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10130/391">http://hdl.handle.net/10130/391</a>
Right	

## 1. 口腔健康臨床科学講座

### プロフィール

#### 1. 教室員と主研究テーマ

教 授	柿澤 卓 (口腔外科学分野)	非進展口腔癌に対する予後推測因子 (A98-0470-8)
	槇石 武美 (歯科保存学分野)	抜髄および感染根管治療後の根管充填と再治療に関する臨床統計
	安達 康 (歯科補綴学分野)	タレット機構を装備するサバイヤーの活用性についての報告 (A06-0792-2)
助 教 授	堀田 宏巳 (歯科補綴学分野)	骨結合インプラントの基礎的臨床的研究 (A83-0530-1)
	高野 正行 (口腔外科学分野)	粘膜染色による口腔粘膜疾患の診断に関する研究 (A98-0470-13)
	末石 研二 (歯科矯正学分野)	先天性疾患の歯科矯正治療に関する研究 (A05-0792-11)
	大多和由美 (小児歯科学分野)	外傷幼若永久歯における電氣的閾値の経時的変化 (A87-0450-4)
	古澤 成博 (総合歯科学分野)	難治性根尖性歯周炎の研究
	福田 謙一 (歯科麻酔学分野)	鎮痛関連物質受容体の遺伝子多型が下顎形成術後の疼痛治療に及ぼす影響に関する研究 (A04-0500-10)
講 師	松井 隆 (口腔外科学分野)	静脈内投与及び経口投与アデノシン三リン酸の鎮痛作用 歯根端切除における根端閉鎖材料の違いによる治癒経過に関する研究
	森山 貴史 (歯科保存学分野)	新しい歯周治療技術の開発に関する研究
	関根 秀志 (口腔インプラント学分野)	歯牙への被圧状態に関わる中枢の活動 骨結合インプラントの基礎的臨床的研究
	望月 清志 (小児歯科学分野)	永久歯萌出遅延歯の処置法
	辻野啓一郎 (小児歯科学分野)	乳歯形態異常、歯数異常の永久歯列へ及ぼす影響、障害
	宮崎 晴代 (歯科矯正学分野)	不成咬合と歯牙喪失の関係について (A05-0792-12)
助 手	山 満 (歯科放射線学分野)	0-ラジカル水 (負電荷酸素原子) の口腔微生物に対する研究
	高崎 義人 (口腔外科学分野)	歯槽神経損傷に対する治癒効果判定に関する臨床的検討
	横山 葉子 (口腔外科学分野)	歯根端切除の治療成績に関する臨床学的検討
	三宅 菜穂子 (歯科補綴学分野)	補綴材料への口腔内細菌の吸着に関する実験的研究 (A05-0792-5)
	金井 由起 (歯科補綴学分野)	歯冠色修復材料の表面処理方法と接着性に関する研究 (A99-0520-1)
	笠原 正貴 (歯科麻酔学分野)	星状神経節ブロック施行時の合併症に関する臨床的検討
	瀬田 修一 (口腔外科学分野)	Immediate Loading と Early Loading に関する研究
	田口 達夫 (口腔インプラント学分野)	インプラント埋入時の生体反応に関する臨床的研究

助手	林 正樹 (歯科矯正学分野)	東京歯科大学水道橋病院矯正歯科における予定外来院の実態調査 (A06-0792-3)
	井上 敬介 (歯科補綴学分野)	可撤性局部義歯の診断と診療計画 (A85-0530-1)
	海老原 環 (歯科矯正学分野)	顎変形症患者の臨床的統計調査
	細川 壮平 (総合歯科学分野)	睡眠時無呼吸症候群の検討
	高久勇一朗 (口腔外科学分野)	初期口腔癌に関する臨床的研究
	小貫 瑞穂 (総合歯科学分野)	咬合機能回復についての検討
	齋田菜緒子 (歯科麻酔学分野)	リラックス歯科治療外来における長時間外来全身麻酔の臨床的検討
	山上 美樹 (歯科補綴学分野)	インプラントの治療の臨床評価
	半田麻里子 (歯科麻酔学分野)	フェンタニル急速静脈内投与による咳の発現に関する検討
病院助手	松本 信哉 (歯科保存学分野)	保存治療の予後判定に関する臨床的研究
	水戸部明子 (歯科保存学分野)	保存治療の予後判定に関する臨床的研究
	井田 篤 (歯科保存学分野)	保存治療の予後判定に関する臨床的研究
	大貫 智宏 (歯科補綴学分野)	タレット機構を装備するサベイヤ-の活用性についての報告 (A06-0792-2)
	栗田 麗 (歯科補綴学分野)	タレット機構を装備するサベイヤ-の活用性についての報告 (A06-0792-2)
	山本 るみ (歯科補綴学分野)	タレット機構を装備するサベイヤ-の活用性についての報告 (A06-0792-2)
	永島絵梨奈 (歯科補綴学分野)	タレット機構を装備するサベイヤ-の活用性についての報告 (A06-0792-2)
	神崎 英行 (歯科補綴学分野)	タレット機構を装備するサベイヤ-の活用性についての報告 (A06-0792-2)
	小林麻衣子 (歯科補綴学分野)	タレット機構を装備するサベイヤ-の活用性についての報告 (A06-0792-2)
	古屋 克典 (歯科補綴学分野)	タレット機構を装備するサベイヤ-の活用性についての報告 (A06-0792-2)
	今井 崇之 (口腔外科学分野)	三次元インクジェットプリンターによる実物大石膏モデルの口腔外科手術への臨床応用
	桑山 真寧 (口腔外科学分野)	ヒト口腔カンジダ菌に関する検出・同定に関する研究
	藤田 佳子 (口腔外科学分野)	顎変形症患者におけるオトガイ神経知覚鈍麻に関する研究
	関根亜理紗 (口腔外科学分野)	顎矯正手術のクリニカルパスに関する研究
	渡辺 玲子 (口腔外科学分野)	顎変形症術後の後戻り症例に関する研究
	伊藤 哲平 (口腔外科学分野)	インプラント埋入を目的とした自家骨移植についての臨床的検討
	山村 哲夫 (口腔外科学分野)	舌神経麻痺に関する研究

病院助手	小林 弥生 (口腔外科学分野)	実物大臓器立体石膏モデルの顎骨腫瘍に対する臨床応用の有用性
	古澤 圭 (口腔外科学分野)	水道橋病院口腔外科における口腔良性腫瘍の臨床統計
	鶴木 祥子 (歯科矯正学分野)	8020 達成者におけるバランス体重計による重心変動について
	横田 麗子 (歯科矯正学分野)	矯正治療への舌圧の影響
	井上 恵実 (歯科矯正学分野)	インプラント矯正治療に関する臨床的統計調査
	竹井 邦男 (歯科矯正学分野)	Sotos 症候群の矯正治療に関する研究
	川端 薫子 (歯科矯正学分野)	矯正治療中の痛みに対する神経開口部へのレーザー照射について
	篠 珠美 (歯科矯正学分野)	CASMAS を用いた骨年齢評価
	金子かおり (小児歯科学分野)	障害児、低年齢児の歯科治療
	谷田部純子 (歯科麻酔学分野)	ミダゾラム至適鎮静量に影響を及ぼす因子の検討
	小川 志保 (歯科麻酔学分野)	フェンタニルとプロポフォールとの相乗効果に関する検討
	松崎 文頼 (口腔インプラント学分野)	インプラント即時負荷術式に対する臨床的評価
	大迫 美穂 (総合歯科学分野)	X 線写真の画像評価についての検討
	関根珠里亜 (総合歯科学分野)	総合診療実践のための診査・診断・治療計画の検討
	根本 詩子 (総合歯科学分野)	総合診療実践のための診査・診断・治療計画の検討
早川 裕記 (総合歯科学分野)	総合診療実践のための診査・診断・治療計画の検討	
大学院生	山田 清貴 (口腔外科学分野)	0-ラジカル水 (負電荷酸素原子) の口腔微生物に対する研究
専攻生	庵原 義明 (歯科麻酔学分野)	歯科恐怖症患者の背景因子の分析 (顎変形症手術前患者との比較)
	岡村 大器 (口腔外科学分野)	下顎第三大臼歯の萌出様態による第二大臼歯に対する影響

## 2. 成果の概要

### 歯科保存学分野

EMDOGAIN を用いた root coverage の一症例

歯周治療を行うに当たって、歯肉退縮などによって生じた歯根露出は、知覚過敏や審美障害、付着の喪失といった問題を引き起こす。この歯根露出を改善する方法として、主に歯周形成外科が行われる。露出根面を被覆する根面被覆 (root coverage) 法には、歯肉弁側方移動術、歯肉弁歯冠側移動術、遊離歯肉移植術、結合組織移植術、GTR 法などがあるが最近、エナメルマトリックス・デリバティブ (エムドゲイン; 以下 EMD と略す) を用いた方法も報告されている。今回我々は、root coverage に EMD を応用したところ良好な結果が得られた。

患者は 25 歳女性。Non-smoker。主治医よりの #44 root coverage の依頼にて来院した。患者はブラッシング時の歯肉疼痛を自覚していた。#44 には根面露出が存在し周囲歯肉には著明な炎症が認められた。歯肉退縮は MGJ を越えていたが歯間部の歯槽骨や付着の喪失は無く Miller の分類で Class II であった。当初、結合組織移植による root coverage を企図し、浸潤麻酔下に #44 に粘膜弁を形成して受容床作成後、上顎右側小臼歯部口蓋側より結合組織の採取を試みたが失敗した。そこで急遽、EMD を併用した歯肉弁歯

冠側移動術に術式を変更することを考え、結合組織移植のため形成していた粘膜弁をさらに根尖側寄りに拡張し、歯肉弁が十分に歯冠側に移動できることを確認したうえで、EMDを応用した。粘膜弁を歯冠側に移動させ、露出根面を歯肉弁で被覆後、乳頭貫通懸垂縫合にて縫合を施した。術後3週間目に抜糸を行った。術後8ヶ月目の観察では、根面露出の再発も自覚症状もなく、患者は問題なくブラッシングを行っている。

今回我々は、root coverage に際してEMDを併用した歯肉弁歯冠側移動術を行い、良好な結果を得た。今回の症例を通じ、root coverage にEMDを応用することの有用性が示唆された。今後さらに症例を重ね、術式の改善を図ると共に結合組織移植との併用など他の術式への展開も試みる予定である。

## 歯科補綴学分野

### 1) 補綴材料への口腔内細菌の吸着に関する実験的研究 (A05-0792-14)

本研究では、口腔内での唾液タンパクおよび口腔内細菌の吸着が固体面と液界面で起こることを考慮し、吸着現象の実験系に吸着媒として固体を使用し、電気泳動光散乱光度計 (ELS-800 大塚電子社製) による平板状の歯冠用硬質レジンおよびアパタイトのゼータ電位測定法を確立した。電気泳動装置を用いた試料片表面への唾液タンパクの吸着実験では、吸着実験前後のゼータ電位からBSAの吸着状態を比較した。歯冠用硬質レジンでは材質によってBSAの吸着状態をコントロールできる可能性が示唆された。一方、アパタイトでは今回使用したレーザー照射条件で非アパタイトとレーザー照射アパタイトにBSA吸着状態に差が認められず、レーザー照射後のアパタイト表面への唾液タンパクの吸着阻止効果は確認できなかった。(文科省科研費・基盤 (C) ゼータ電位による補綴材料およびアパタイト表面への唾液タンパク吸着性と吸着防止評価)

### 2) タレット機構を装備するサバイヤーの活用性についての報告 (A06-0792-2)

東京歯科大学水道橋病院にて勤務の医局員10名と歯科技工師7名にコマツ社製サバイヤーを実際に使用してもらい、他社の製品との比較についてアンケート調査を行った。結果として操作性、構造、正確性、については従来のものとは差がないが、タレット機構については、義歯の設計をする際の時間の短縮にもつながり非常に有効な機構である。今後より有用的なものとする為①アームの可動性②4ヶ所全てにフリクション機構③雲台の構造の工夫等が必要である。

## 口腔外科学分野

客観的な知覚検査法と自覚症状の聴取を行い下顎枝矢状分割法術後の長期経過例の知覚障害発現率について検討した。

SW知覚検査の知覚障害発現率は下唇枝が直後例：25.0%、長期例：5.3%、口角枝が直後例：28.5%、長期例：1.7%、オトガイ枝が直後例：28.5%、長期例：3.5%であった。二点識別閾検査はs-2PDでは下唇枝が直後例：16.0%、長期例：3.6%、オトガイ枝が直後例：28.5%、長期例：3.5%であった。m-2PDでは下唇枝が直後例：43.4%、長期例：19.5%、オトガイ枝が直後例：54.3%、長期例：6.5%であった。自覚症状の知覚障害発現率は、なんらかの自覚症状を有する症例は、直後例：53.5%、長期例：10.7%であった。自覚症状の詳細は、全体として知覚脱失が直後例：3.5%、長期例：0%、知覚鈍麻が直例：41.0%、長期例：5.3%、異感覚が直後例：23.2%、長期例：0%、錯感覚が直後例：25%、長期例：3.5%であった。また自覚症状を有する長期例6例のうち“日常生活に支障ない”症例は67%、“全く気にならない”症例は33%、“不快症状がある”と答えた症例は0%であった。自覚症状残存例と客観的検査でも知覚障害発

現を認める患者は3.5%であった。一方、自覚症状が認められないにも関わらず、客観的検査で異常値を示した症例は全体の3.5%であった。

日口腔診会誌 **19**(2), 265~272, 2006

### 歯科矯正学分野

#### 1) 東京歯科大学水道橋病院矯正歯科における予定外来院の実態調査

水道橋病院矯正歯科と千葉病院矯正歯科における一年間の来院患者のうち、次回の予約をしているのにも関わらず、矯正装置の何らかの問題で予約を変更し、予定日より以前に来院した患者を予定外の来院患者として、担当医から事例のアンケート調査を行った。1) 予定外の来院患者の占める割合は、千葉病院矯正歯科の1.4%に対して水道橋病院矯正歯科では4.2%と高かった。2) 問題が生じた原因は、2施設ともに不可抗力が最も多く、ヒューマンエラーによる要因が約4割であった。3) 来院の緊急度は、2施設ともに緊急度の高いものと中等度のもので70%以上を占めた。4) 来院理由の内容は、装置の脱落や逸脱が2施設ともに多かった。5) 起因した装置の種類は、アーチワイヤーが2施設ともに多かった。以上より、ヒューマンエラーを誘発させない環境を作り、事故に発展させない予防策を立案し、フィードバックさせることが予定外の来院の予防、再発防止につながると考えられた。

歯科学報 **106**(2), 97~104, 2006.

#### 2) 東京歯科大学水道橋病院矯正歯科における口唇口蓋裂患者の統計的観察

1999年1月から2003年12月までの5年間に東京歯科大学水道橋病院矯正歯科を受診した口唇裂口蓋裂を有する患者174名のうち、年齢別来院人数が多かった6、7、8歳児の84名（男児44名、女児40名）の顔面写真、口腔内写真、パノラマエックス線写真、デンタルエックス線写真を用い、咬合状態を評価した。結果、片側性唇顎口蓋裂患者のcrossbiteの発現率は、前歯については、健側75.0%、患側91.7%、とともに高い割合であった。犬歯、臼歯については、患側では95.8%、75.0%と高いが、健側では29.2%、20.8%と低かった。第一大臼歯については、患側、健側とも16.7%と低かった。両側性唇顎口蓋裂について、片側性唇顎口蓋裂の患側と比較すると、前歯64.3%、犬歯75.0%、臼歯50.0%、第一大臼歯7.1%とすべての部位で発現率は低かった。一方、片側性唇顎口蓋裂の健側と患側との合計（Total）と比較すると、前歯では低い犬歯では高かった。片側性唇顎裂患者については、前歯では、健側36.4%、患側40.9%であったcrossbiteの割合が、健側では犬歯、臼歯、第一大臼歯ともに0%であり、患側、Totalでは後方の歯牙へ向かうにつれて、減少していた。両側性唇顎裂について、片側性唇顎裂の患側と比較すると、前歯、犬歯ではcrossbite発現率は低い、臼歯では高かった。一方Totalとの比較では、前歯では低い犬歯、臼歯では高かった。正中の偏位について唇顎口蓋裂では、片側性に比して両側性で正中が一致するものの割合が多かった。

日口蓋会誌 **31**(1), 39~44, 2006.

#### 3) 矯正歯科治療中の痛みに対する神経開口部へのレーザー照射について

##### -機械的刺激による痛み緩和メカニズムの検討-

本研究では、矯正力負荷後最大痛み発現時に、両側の下顎孔部、上顎結節部、眼窩下孔部へレーザー照射を行い、その前後での機械的刺激としての打診に対する応答の変化を記録し、レーザー照射が痛覚の興奮伝導に対してどのような変化を及ぼすか検討した。マルチブラケット法で矯正治療を開始する成人16名のうち、8名をレーザー照射群、他の8名をコントロール群とした。最大痛み発現時、照射群には神経開

口部に歯科用半導体レーザーを照射し、コントロール群には偽照射を行った。照射前後に機械的刺激としての打診に対する応答を記録した結果、下顎孔部と上顎結節部へのレーザー照射により、歯への機械的刺激に対する応答が有意に低下し、レーザー照射による痛み緩和の神経生理学的作用機序として、末梢神経系の興奮伝導抑制が考えられた。よって、下顎孔部と上顎結節部へのレーザー照射は、歯根周囲への照射と比較して効率的、かつ効果的であると考えられた。

歯科学報 **106**(2), 91~96, 2006

## 小児歯科学分野

東京歯科大学水道橋病院における障害者全身麻酔下歯科治療の現状

東京歯科大学水道橋病院では高次医療機関として、各地域の障害者診療所から全身麻酔下の歯科治療を前提とする依頼をされることも多い。今回、我々は当院における2003年1月から2006年3月までの3年3か月間の全身麻酔下障害者歯科治療について、来院経緯や治療内容を中心に実態調査を行った。対象者は男性39名、女性22名であった。年齢は2歳から48歳まで幅広く、15歳未満の障害児が約7割を占めていた。障害は精神遅滞を伴う疾患がほとんどであった。全ての患者が医療機関からの紹介を受けており、特に地域医療センターからが多かった。歯科治療内容は齲蝕に対する処置がほとんどであり、1回の全身麻酔下歯科治療で平均7.8歯の治療を行っていた。処置内容は保存修復が多く、特にコンポジットレジン修復が多かった。歯科治療終了後、約8割の患者は紹介元医療機関に戻り、その後の管理を行っていた。

当院は地域との連携例が多く、今後も地域との連携を深め障害者歯科治療への貢献をしたいと考える。

歯科学報 **107**(1), 96~101

## 歯科麻酔学分野

- 1) 鎮痛関連物質受容体の遺伝子多型が下顎形成術後の疼痛治療に及ぼす影響に関する前向き研究 (A04-0500-10)

これまでに152名を調査し、現在も調査中である。術中に採取された血液から、遺伝子型の解析を行い、一部の多型に相関関係が認められている。示指氷水浸漬による疼痛感知潜時間とフェンタニールの使用量においても、一部の多型に関連が認められている。また、術前不安 (STAI) と術後のフェンタニールの使用量の関係についても調査したが、特別な因果関係はなさそうである。

平成18年度厚生労働科学研究総括報告書, 41~43, 第8回口腔顔面痛学会発表

- 2) 静脈内投与及び経口投与アデノシン三リン酸の鎮痛作用

口腔顔面領域においても、治療に難渋する慢性疼痛が存在する。抜髄や抜歯後に生じた神経因性疼痛、慢性化した咀嚼筋痛、舌痛症、帯状疱疹後神経痛などで、通常試みられる神経ブロックや薬物治療などの治療に抵抗した症例を対象として、アデノシン三リン酸 (ATP) 持続静脈内投与を応用し、その鎮痛効果を観察した。また、これまでに応用した103症例の使用経験から得たATP持続静脈内投与の副作用など安全性について検討した。

J Anesth **21**(1), 24~30, 2007. 第11回国際歯科麻酔学会発表、第34回日本歯科麻酔学会発表

- 3) 星状神経節ブロック施行時の合併症に関する臨床的検討

星状神経節ブロックは、口腔顔面領域における難治性の疼痛に対して有効なペインクリニックの手法であるが、時として合併症が発現する。そこで、過去10年間の約3万症例をレトロスペクティブに分析し、

局所麻酔中毒、上肢麻痺、血腫などの合併症例を抽出し、検討した。

日歯麻酔会誌 35(2), 258~259, 2007.

日歯麻酔会誌 35(5)印刷中、第34回日本歯科麻酔学会発表

#### 4) リラックス歯科治療外来における長時間外来全身麻酔の臨床的検討

水道橋病院歯科麻酔科のリラックス歯科治療外来において、重度の歯科恐怖症・異常絞扼反射を有する患者には全身麻酔下での治療を余儀なくされ、多数歯う蝕で咬合が崩壊している場合など、処置時間が長時間におよぶ場合がある。そこで、長時間の外来全身麻酔症例の麻酔方法（セボフルランとプロポフォールの比較）、覚醒・回復状態、術後合併症についてレトロスペクティブに調査した。

第11回国際歯科麻酔学会発表、第35回日本歯科麻酔学会発表予定

#### 5) フェンタニル急速静脈内投与による咳の発現に関する検討

フェンタニルを急速に静脈内投与すると、咳が発現する。それが量依存性なのか、そのメカニズムはなにかを検討した。量依存性であることは明確になった。咳反射を防止する薬物の事前投与から、メカニズムについて調査中である。

第11回国際歯科麻酔学会発表、第26回日本臨床麻酔学会発表

#### 6) 口腔顔面領域神経因性疼痛の遺伝子多型研究

神経因性疼痛はペインクリニック領域でも最も治療に難渋する慢性疼痛性疾患である。その理由のひとつに発生機序・病態が一樣ではないことがあげられる。日常臨床においても抜髄後、根管治療をいくら施しても執拗に痛みを訴える異常な痛みが存在する。このような歯痛を訴える患者が来院した場合、神経因性疼痛なのか、疼痛性障害なのか、根端部の器質的問題（副根管や根端の破折）またそれによる歯根膜炎なのか、関連歯痛（筋性、血管性）なのか、診断に苦慮することが多い。その一方で遺伝子的要因として神経因性疼痛と鎮痛関連物質および神経伝達物質受容体の遺伝子多型の関係が現在注目されている。現在、薬理的疼痛機序判別試験に従った診断チャートを確立し、遺伝子分析の準備中である。

#### 7) 歯科恐怖症・強度嘔吐患者の背景因子の分析（顎変形症手術前患者との比較）

歯科恐怖症・強度嘔吐患者の発症には、幼少時の経験や精神疾患は関連があるのか。一般の人との間に不安状態に相違があるのか。その背景を調査し分析する。今年度は、特性不安、処置前の状態不安について、顎変形症手術前の患者のデータと比較した。

第35回日本歯科麻酔学会発表予定

### 口腔インプラント学分野

#### 1) 歯牙への被圧状態に関わる中枢の活動

本研究の目的は、歯牙への被圧状態の認識に関わる中枢の活動を把握し、歯根膜受圧感覚情報の意義を解明することである。これまで上顎中切歯、上顎犬歯ならびに下顎中切歯への触覚刺激に伴う脳磁場計測を行い、歯根膜受圧感覚の大脳皮質上の応答を観察した。本年度は、浸潤麻酔により歯根膜受圧感覚情報を欠落させた際の中枢応答の観察を試みた。



### 2) 歯科インプラント上部構造の力学特性の解明

米国ワシントン大学補綴学講座へ海外出張において、インプラント上部構造の装着に関わる力学特性について調査を行った。現在データ解析中であり、専門誌への投稿を検討している。

### 3) インプラント埋入時の生体反応に関する臨床的研究

インプラント埋入手術においては、患者に種々のストレスを生じる。インプラント埋入手術時の生体反応を監視モニターにて把握し、生体への侵襲の少ない臨床術式への指針を明らかにする。

### 4) インプラント即時負荷術式に対する臨床的評価

一定の条件下においては、インプラント埋入と同時に上部構造を装着し、埋入後即時に機能圧を負荷することが可能である。本術式は、従来の待時負荷術式に比較し、術直後の患者のQOL向上に有効であると考えられる。本研究では、即時ならびに待時負荷術式を採用した症例の機能向上の程度を把握することにより、即時負荷術式の適用指針と有効性について明らかにする。

## 総合歯科学分野

### 総合診療の進め方の検討

総合診療を進めるにあたっては、①患者中心の診療を行うこと、②計画診療を行うこと、③診療の流れのパターンを作ることが必要である。そのためには一口腔単位での治療が必要であり、患者固有の硬組織及び軟組織の機能を重視した治療計画が必要となってくる。このように受診者来院時からの個々のステップをひとつひとつ検討し、機能回復を図るべく診療にあたっている。

## 3. 学外共同研究

担当者	研究課題	研究施設	所在地	責任者
関根 秀志	歯科インプラント上部構造の力学特性の解明	ワシントン大学補綴学講座	米国・ワシントン州・シアトル	J. E. Rubenstein
福田 謙一	静脈内投与及び経口投与アデノシン三リン酸の鎮痛作用	ハーバーUCLA メディカルセンター麻酔科	アメリカ合衆国	福永敦翁
笠原 正貴	安全で効率のよい低流量麻酔に用いる新しい呼吸回路の研究	ハーバーUCLA メディカルセンター麻酔科	アメリカ合衆国	福永敦翁
福田 謙一	鎮痛関連物質受容体の遺伝子多型が下顎骨切り術後の疼痛治療に及ぼす影響に関する前向き研究	東京大学医科学研究所 東京都精神医学総合研究所 分子精神医学研究部門	東京 東京	林田眞和 池田和隆
福田 謙一 小林 大輔	口腔顔面領域神経因性疼痛の遺伝子多型研究	東京大学医科学研究所 東京都精神医学総合研究所 分子精神医学研究部門	東京 東京	林田眞和 池田和隆

4. 科学研究費補助金・各種補助金

研究代表者	研究課題	研究費
三宅菜穂子	ゼータ電位による補綴材料およびアパタイト表面への唾液タンパク吸着性と吸着防止評価	文科省科研費・基盤研究 (C)17592045
高久勇一郎	負電荷酸素原子の生体反応に関する病理組織学的研究	文科省科研費・萌芽研究

5. 研究活動の特記すべき事項

受賞

受賞者名	年月日	賞名	テーマ	学会・団体名
谷田部純子	2006. 10. 6	デンツプライ賞	ミダゾラム至適鎮静量 事前予測に関する検討	日本歯科麻酔学会 デンツプライジャパンリミテッド
半田麻里子	2006. 10. 27	Good Presentation 賞	フェンタニルの一回 静脈内投与による咳 反射の予防に対する 検討	日本臨床麻酔学会 第26会大会

シンポジウム

シンポジスト	年月日	演題	学会名	開催地
高崎 義人	2005. 4. 23	Sensory Disturbance after Sagittal Splitting Ramus Osteotomy	The46 Congress of the KOREAN ASSOCIATION OF ORAL & MAXILLOFACIAL SURGEONS	韓国
高野 正行	2006. 5. 12	吸収性プレートを応用した下顎 枝矢状分割術の長期安定性について	第60回日本口腔科学学会	名古屋市
福田 謙一	2006. 10. 7	Nerve Injury following Implant Surgery and Its Treatment in Orofacial Pain Clinic	11 th International Dental Congress on Modern Pain Control	横浜市
笠原 正貴	2006. 10. 8	関連痛のメカニズム -臨床像を裏付ける神経生理学的 メカニズム-	第7回口腔顔面痛学会学術集会	横浜市

学会招待講演

講演者名	年月日	演題	学会・研究会名	開催地
福田 謙一	2006. 5. 27	歯科領域での判別困難な痛み への対応	北海道臨床歯科麻酔学会	帯広市
福田 謙一	2006. 11. 18	Treatments for Orofacial Pain in Japan	Annual Conference of Pain Branch Association of Shaanxi Medical Association	中国・西安

6. 教育講演など教育に関する活動

教育講演

講演者	年月日	演題	学会・研究会名	開催地
関根 秀志	2006. 4. 8	インプラント治療のスタンダードを考える	東京歯科大学同窓会宮城県支部 学術講演会	仙台市
高野 正行	2006. 4. 13	診断に苦慮した口腔病変	水道橋病院症例報告会	東京
高崎 義人	2006. 4. 13	チェア-サイドの困ったときの対応	水道橋病院症例報告会	東京
関根 秀志	2006. 4. 13	口腔外科処置を伴うインプラント難症例への対応	水道橋病院症例報告会	東京
古澤 成博	2006. 4. 13	マイクロスコープを用いた歯科治療	水道橋病院症例報告会	東京
福田 謙一	2006. 4. 29	歯科における痛み治療とリラックス外来	東京歯科大学同窓会百樹会学術講演会	東京
関根 秀志	2006. 5. 26	骨結合のリスクファクター	GCインプラントベーシックセミナー	東京
関根 秀志	2006. 5. 27	インプラント補綴術式概論	GCインプラントベーシックセミナー	東京
末石 研二	2006. 6. 9	プラン・ドゥ・シーー -これから はじまる学会二日間の序奏-「実 習:手術の治療計画を立ててみよ う -cephalometric prediction なら何度でもOK-	第16回日本顎変形症学会 第2回教育研修会	千葉市
福田 謙一	2006. 6. 24	痛みの管理と救急処置	群馬県沼田市歯科医師会学術講演会	沼田市
福田 謙一	2006. 9. 2	リラックス歯科治療外来の現況	東京歯科大学同窓会関東ブロッ ク学術講演会	東京
関根 秀志	2006. 9. 9	インプラント治療の臨床	東京歯科大学同窓会卒業研修セミナー	東京
関根 秀志	2006. 9. 30	骨結合のリスクファクター	GCインプラントベーシックセミナー	東京
関根 秀志	2006. 10. 1	インプラント補綴術式概論	GCインプラントベーシックセミナー	東京
福田 謙一	2007. 2. 1	痛みの診断と管理	横須賀市歯科医師会学術講演会	横須賀市
福田 謙一	2007. 2. 7	歯科における診断困難な痛み への対応	浦和市歯科医師会学術講演会	浦和市
関根 秀志	2007. 2. 8	東京歯科大学水道橋病院におけ るインプラント治療	岡山大学主催インプラントセミナー	岡山市
関根 秀志	2007. 2. 17	インプラント治療のステップ アップ	GCインプラントテクニカルセ ミナー・外科	東京
福田 謙一	2007. 3. 15	歯科患者の全身管理とモニタ リング	杉並区木曜会学術講演会	東京

教育ワークショップ等

氏名	年月日	ワークショップ名	役割	開催地
古澤 成博	2006. 5. 20-21	第 20 回東京歯科大学カリキュラム 研修ワークショップ	タスクフォース	千葉市

共用試験等

氏名	年月日	種別	役割	開催地
古澤 成博	2006. 7. 2	平成 18 年度水道橋病院臨床研修歯 科医 OSCE	実行委員長	東京
細川 壮平	2006. 7. 2	平成 18 年度水道橋病院臨床研修歯 科医 OSCE	副委員長	東京
森山 貴史 高野 正行 堀田 宏巳 近藤 祥弘	2006. 7. 2	平成 18 年度水道橋病院臨床研修歯 科医 OSCE	ST 責任者	東京
井上 敬介	2006. 7. 2	平成 18 年度水道橋病院臨床研修歯 科医 OSCE	評価表	東京
宮崎 晴代	2006. 7. 2	平成 18 年度水道橋病院臨床研修歯 科医 OSCE	進行	東京
小貫 瑞穂	2006. 7. 2	平成 18 年度水道橋病院臨床研修歯 科医 OSCE	器材	東京
笠原 正貴	2006. 7. 2	平成 18 年度水道橋病院臨床研修歯 科医 OSCE	誘導	東京
田口 達夫	2006. 7. 2	平成 18 年度水道橋病院臨床研修歯 科医 OSCE	記録	東京

## 1. 口腔健康臨床科学講座 1) 歯科保存学分野

### 論 文

1. 古澤成博<sup>(1)</sup>, 高橋潤一, 磯山素子<sup>(2)</sup>, 北村佳子<sup>(2)</sup>, 茂木知子<sup>(2)</sup>, 上島文江<sup>(2)</sup>, 中浜典子<sup>(2)</sup>, 荒木みさ子<sup>(2)</sup>, 六川泰子<sup>(3)</sup>, 高橋義一<sup>(4)</sup>, 槇石武美, 谷田部賢一<sup>(5)</sup>: TBIを採り入れた口腔健診の口腔清掃状態に与える効果, 歯科学報 **106**(6), 500~504, 2006. 原著 (1)口健臨・総合歯科,(2)東歯大・水道橋病院・歯科衛生士部,(3)神奈川県,(4)社会歯,(5)口健臨・矯正科

### その他

1. Akihiro,Y.<sup>(1)</sup>, Hosokawa,I.<sup>(1)</sup>, Hosokawa,S.<sup>(2)</sup>, Noro,A.<sup>(3)</sup>, Makiishi,T., Hirai,Y.<sup>(4)</sup>: Study of Japanese Labial Closure Strength, Dental Asia, 14~17, 2006. (1)東京都,(2)口健臨・総合歯科,(3)千病・総合診療科,(4)保存修復
2. 森山貴史: からだと心健康相談「歯周病菌が多く心配.減らすにはどうすればいいのか...」, すこやかファミリー (552), 30, 2006.
3. 森山貴史: 健康トラブル Q&A「親知らずが痛む.むし歯ではないが,抜くべき?」, ジャストヘルス(283), 22, 2006.
4. 森山貴史: 読む総合病院 なんでも健康相談「歯周炎で歯を抜くように勧められています」, きょうの健康(225), 123, 2006.

### 学会抄録

1. 森山貴史, 松本信哉, 水戸部明子, 井田 篤, 槇石武美: EMDOGAIN 併用歯肉弁歯冠側移動術により root coverage を行った一症例, 歯科学報 **106**(5), 450, 2006.(第 282 回東京歯科大学学会(総会), 千葉市)

## 1. 口腔健康臨床科学講座 2) 歯科補綴学分野

### その他

1. 三宅菜穂子：ゼータ電位による補綴材料およびアパタイト表面への唾液タンパク吸着性と吸着防止評価，平成17-18年度科学研究費補助金(基盤研究(C)17592045)研究成果報告書，2007. A05-0792-14 細形研

### 学会抄録

1. Tomita,Y.<sup>(1)</sup>, Miyake,N., Yamanaka,S.<sup>(2)</sup> : Lipids in parotid saliva with regard to caries risk, Caries Res **40**(4), 353, 2006.(53rd ORCA Congress, Glasgow, UK) A89-0120-1 生素研 (1)生化学,(2)衛生
2. 鬼澤勝弘<sup>(1)</sup>, 村松 敬<sup>(1)</sup>, 松木美和子<sup>(1)</sup>, 太田一正<sup>(2)</sup>, 高橋 賢<sup>(3)</sup>, 服部雅之<sup>(4)</sup>, 三宅菜穂子, 松坂賢一<sup>(5)</sup>, 佐藤 亨<sup>(6)</sup>, 小田 豊<sup>(4)</sup>, 下野正基<sup>(1)</sup> : ラット耳下腺細胞に対する半導体レーザー照射の影響, 歯科学報 **106**(2), 52, 2006.(第281回東京歯科大学学会(例会), 千葉市) HRC5A03 細形研 実動施設 (1)病理,(2)生化学,(3)保存修復,(4)理工,(5)臨検査,(6)クラウンブリッジ
3. 田口達夫<sup>(1)</sup>, 関根秀志<sup>(1)</sup>, 井上敬介, 瀬田修一<sup>(2)</sup>, 高野正行<sup>(2)</sup>, 武田孝之<sup>(1)</sup>, 柿澤 卓<sup>(2)</sup> : 上顎洞底挙上術を用いてインプラント治療を行った一症例, 歯科学報 **106**(2), 126, 2006.(第281回東京歯科大学学会, 千葉市) (1)口健臨・口腔インプラント科,(2)口健臨・口外科
4. 大貫智宏, 栗田 麗, 永島絵梨奈, 松崎文頼<sup>(1)</sup>, 山本るみ, 山上美樹, 井上敬介, 堀田宏巳, 安達 康 : タレット機構を装備するサベイヤーの活用性についての報告, 日補綴歯会誌 **50**(第115回特別号), 118, 2006.(第115回日本補綴歯科学会学術大会, 札幌市) A06-0792-2 (1)口健臨・口腔インプラント科
5. 三宅菜穂子, 富田友美子<sup>(1)</sup>, 山中すみへ<sup>(2)</sup> : う蝕歯におけるヒト唾液中脂質の影響, 第45回日本油化学会年会講演要旨集, 166, 2006.(第45回日本油化学会年会, 野田市) A-89-0120-1 生素研 (1)生化学,(2)衛生
6. 松崎文頼<sup>(1)</sup>, 永島絵梨奈, 山本るみ, 大貫智宏, 栗田 麗, 山上美樹, 井上敬介, 田口達夫<sup>(1)</sup>, 関根秀志<sup>(1)</sup>, 安達 康 : イミディエートローディングにて咬合を回復した患者の評価, 第36回日本口腔インプラント学会総会・学術大会抄録集, 225, 2006.(第36回日本口腔インプラント学会学術大会, 新潟市) (1)口健臨・口腔インプラント科
7. 田口達夫<sup>(1)</sup>, 関根秀志<sup>(1)</sup>, 松崎文頼<sup>(1)</sup>, 山上美樹, 井上敬介, 武田孝之<sup>(1)</sup>, 安達 康 : 上顎洞を避けて既存骨内にインプラントを意図的に傾斜埋入して咬合再構成した一症例, 第36回日本口腔インプラント学会総会・学術大会抄録集, 248, 2006.(第36回日本口腔インプラント学会学術大会, 新潟市) (1)口健臨・口腔インプラント科

## 1. 口腔健康臨床科学講座 3) 口腔外科学分野

### 論 文

1. 藤田佳子, 高崎義人, 瀬田修一, 高久勇一朗, 高野正行, 柿澤 卓 : 下顎枝矢状分割法術後の長期経過症例における知覚障害発現率, 日口腔診断会誌 **19**(2), 265~272, 2006. 原著
2. 辻野啓一郎<sup>(1)</sup>, 齋田菜緒子<sup>(2)</sup>, 谷田部純子<sup>(2)</sup>, 福田謙一<sup>(2)</sup>, 大多和由美<sup>(1)</sup>, 望月清志<sup>(1)</sup>, 金子かおり<sup>(1)</sup>, 池田正一<sup>(3)</sup>, 柿澤 卓 : 東京歯科大学水道橋病院における障害者全身麻酔下歯科治療の現状, 歯科学報 **107**(1), 96~101, 2007. 臨床 (1)口健臨・小児歯科,(2)口健臨・麻酔科,(3)水道橋病院
3. Takaku,Y., Takano,M., Kakizawa,T., Seta,S., Matsuzaka,K.<sup>(1)</sup>, Hashimoto,S.<sup>(2)</sup> : Aggressive Fibromatosis of the Mandible, Asian J Oral Maxillofac Surg **19**(1), 62~64, 2007. 症例 (1)臨検査,(2)病理

### 解 説

1. 高崎義人(a) : インプラント埋入時の下歯槽神経損傷 とくに大白歯部埋入について, 口腔外科 YEAR BOOK 2006, 111~121, 2006. 別冊 the Quintessence

### 単行図書

1. 池田正一<sup>(1)</sup>, 小森康雄<sup>(2)</sup>, 田上 正<sup>(3)</sup>, 柿澤 卓, 山口 泰<sup>(4)</sup>, 高木律男<sup>(5)</sup>, 宮田 勝<sup>(6)</sup>, 前田憲昭<sup>(7)</sup>, 吉野 宏<sup>(8)</sup>, 玉城廣保<sup>(9)</sup>, 上田良弘<sup>(10)</sup>, 宇佐美雄司<sup>(11)</sup>, 森本佳成<sup>(12)</sup>, 樋口勝規<sup>(13)</sup>, 連 利隆<sup>(14)</sup>, 岡 慎一<sup>(15)</sup>, 杉原一正<sup>(16)</sup>, 上川善昭<sup>(17)</sup> : 共著 : カラーアトラス 日本のHIV/AIDS 口腔症状 , 厚生労働省エイズ対策研究事業, 横浜市, 2004. (1)神歯大,(2)東医大・口外,(3)国立国際医療センター・口外,(4)仙台医療センター・歯口外,(5)新潟大・歯・口外,(6)石川県立中央病院・口外,(7)大阪府,(8)広島大学,(9)名古屋医療センター・歯口外,(10)関西医大・内科,(11)刈谷総合病院・歯口外,(12)阪大・大学院歯学研究科・高次脳口腔機能学,(13)国立病院九州医療センター・口外,(14)大阪市立総合医療センター口腔外科,(15)国立国際医療センターエイズ治療・研修開発センター,(16)鹿大・付属病院・顎口外,(17)鹿児島

### プロシーディングス

1. 高崎義人 : インプラントによる下歯槽神経損傷への対応—特に神経修復手術の適応について—, 口腔顔面神経機能学会会報 **10**, 17, 2006.(第8回口腔顔面神経機能学会, 横浜市)

### 調査報告

1. 柿澤 卓(a): HIV 感染者の口腔衛生管理ノート 2007—HAART 導入後の変遷を考える— (a)平成 18 年度 エイズ予防財団外国人研究者招聘事業 エプスタイン教授との研究成果 平成 18 年度「歯科のHIV診療体制整備」班 活動成果 1~45 頁, 平成, 2007. 平成 18 年度厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業

## その他

1. Shima,K.<sup>(1)</sup>, Hashimoto,S.<sup>(1)</sup>, Inoue,T.<sup>(2)</sup>, Muramatsu,T.<sup>(1)</sup>, Takasaki,Y., Shibahara,T.<sup>(3)</sup>, Shimono,M.<sup>(1)</sup> : Papillary Thyroid Carcinoma Revealed by Metastasis to the Lateral Neck Region , Oral Med Pathol **10**(4), 145~148, 2005. 2005 年度分 (1)病理,(2)臨検査,(3)口外

## 学会抄録

1. 相澤光博<sup>(1)</sup>, 高野正行, 柿澤 卓, 西川慶一<sup>(2)</sup>, 佐野 司<sup>(2)</sup>, 村上伸一<sup>(3)</sup> : X線CT画像からの骨領域高精度自動抽出の試みー第2報・3次元リージョンローイング法の検討ー, 歯科学報 **106**(2), 114, 2006.(第281回東京歯科大学学会(例会), 千葉市) (1)口健臨・放射線科,(2)歯放,(3)東京電機大・工
2. 山村哲夫, 山田清貴, 藤田佳子, 高野正行, 橋本貞充<sup>(1)</sup>, 柿澤 卓 : 口腔内に神経線維腫の発生をみたvon Recklinghausen病の1例, 歯科学報 **106**(2), 121, 2006.(第281回東京歯科大学学会(例会), 千葉市) (1)病理
3. 田口達夫<sup>(1)</sup>, 関根秀志<sup>(1)</sup>, 井上敬介<sup>(2)</sup>, 瀬田修一, 高野正行, 武田孝之<sup>(1)</sup>, 柿澤 卓 : 上顎洞底挙上術を用いてインプラント治療を行った一症例, 歯科学報 **106**(2), 126, 2006.(第281回東京歯科大学学会(例会), 千葉市) (1)口健臨・口腔インプラント科,(2)口健臨・補綴科
4. 関根亜理沙, 柿澤 卓, 高野正行, 高崎義人, 秋元善次, 桑山真寧 : 当科における顎矯正手術クリニカルパスのバリエーション分析と医療従事者へのアンケート結果について 第二報, 日顎変形会誌 **16**(2), 124, 2006.(第16回日本顎変形症学会(総会), 千葉市)
5. 桑山真寧, 関根亜理沙, 渡辺玲子, 藤田佳子, 今井崇之, 高崎義人, 高野正行, 柿澤 卓, 海老原環<sup>(1)</sup>, 末石研二<sup>(1)</sup>, 谷田部賢一<sup>(1)</sup> : 石膏による実物大顎骨モデルの顎変形症手術への応用, 日顎変形会誌 **16**(2), 133, 2006.(第16回日本顎変形症学会総会, 千葉市) (1)口健臨・矯正科
6. 宮崎晴代<sup>(1)</sup>, 末石研二<sup>(1)</sup>, 谷田部賢一<sup>(1)</sup>, 高野正行, 柿澤 卓 : 転医後,顎位の不一致を改善するため外科矯正となった一症例, 日顎変形会誌 **16**(2), 140, 2006.(第16回日本顎変形症学会総会, 千葉市) (1)口健臨・矯正科
7. 辻野啓一郎<sup>(1)</sup>, 齋田菜緒子<sup>(2)</sup>, 谷田部純子<sup>(2)</sup>, 福田謙一<sup>(2)</sup>, 大多和由美<sup>(1)</sup>, 望月清志<sup>(1)</sup>, 池田正一<sup>(3)</sup>, 柿澤 卓 : 東京歯科大学水道橋病院における障害者全身麻酔下歯科治療の現状, 障害者歯 **27**(3), 459, 2006.(第23回日本障害者歯科学会総会および学術大会, 仙台市) (1)口健臨・小児歯科,(2)口健臨・麻酔科,(3)水道橋病院
8. 横山葉子, 関根亜理沙, 渡辺玲子, 今井崇之, 瀬田修一, 高崎義人, 高野正行, 柿澤 卓 : 下顎骨区域切除後に大耳会神経の遊離自家移植を行なった2例ー特に知覚機能の回復ー, 日口腔外会誌 **52**(suppl), 106, 2006.(第51回日本口腔外科学会総会, 北九州市)
9. 谷口 誠<sup>(1)</sup>, 瀬田修一, 高野正行, 柿澤 卓 : 当健康センターにおける禁煙支援のアンケート調査, 日口腔外会誌 **52**(suppl), 186, 2006.(第51回日本口腔外科学会総会, 北九州市) (1)東京都
10. 山田清貴, 山 満<sup>(1)</sup>, 高久勇一朗, 奥田克爾<sup>(2)</sup>, 柿澤 卓, 加藤哲男<sup>(2)</sup> : O-ラジカル水(負電荷酸素原子)の口腔微生物に対する抗菌効果, 歯科学報 **106**(5), 446, 2006.(第282回東京歯科大学学会(総会), 千葉市) (1)口健臨・放射線科,(2)微生物



11. 宮田 勝<sup>(1)</sup>, 池田正一<sup>(2)</sup>, 北川善政<sup>(3)</sup>, 山口 泰<sup>(4)</sup>, 柿澤 卓, 小森康雄<sup>(5)</sup>, 高木律男<sup>(6)</sup>, 玉城廣保<sup>(7)</sup>, 連 利隆<sup>(8)</sup>, 吉野 宏<sup>(9)</sup>, 吉川博政<sup>(10)</sup>, 樋口勝規<sup>(11)</sup>, 前田憲昭<sup>(12)</sup> : HIV感染患者の歯科受診時における口腔衛生状態, 日本エイズ学会誌 **8**(4), 453, 2006.(第20回日本エイズ学会総会, 東京) (1)石川県立中央病院,(2)神歯大,(3)北大,(4)国立仙台医療センター,(5)東医大,(6)新潟大,(7)国立名古屋医療センター,(8)大阪市立総合医療センター,(9)広大,(10)国立九州医療センター,(11)九大,(12)東京都
12. 高久勇一朗, 柿澤 卓, 小林弥生, 鈴木治仁<sup>(1)</sup>, 岩本愛吉<sup>(2)</sup> : 病診病連携により入院処置を行ったHIV感染者顎嚢胞の1例, 日エイズ会誌 **8**(4), 455, 2006.(第20回日本エイズ学会総会, 東京) (1)東京HIVデンタルネットワーク,(2)東大医科学研究所附属病院・感染免疫科
13. Takano,M., Kakizawa,T., Takasaki,Y., Takaku,Y., Kuwayama,M., Imai,T. : Reliability of the Vital Staining with Iodine and Toluidine Blue Solutions to Detect and Delineate Oral Epithelial Dysplasia and Carcinoma, Asian Journal of Oral and Maxillofacial Surgery **18**(3), 92, 2006.(7th Asian Congress on Oral and maxillofacial Surgery, Hong Kong)
14. Takaku,Y., Sekine, A., Takano,M., Kakizawa,T., Shima,K.<sup>(1)</sup>, Hashimoto,S.<sup>(1)</sup> : A Case of Cystadenoma Arising in the Retromolar Region of the Mandible, Asian journal of Oral and maxillofacial Surgery **18**(3), 92, 2006.(7th Asian Congress on Oral and maxillofacial Surgery, Hong Kong) (1)病理
15. Takasaki,Y., Ohyama,S., Kuwayama,M., Takano,M., Kakizawa,T., Shima,K.<sup>(1)</sup> : A Case of Traumatic Neuroma Following Dental Treatment in the Reion of the Mental Foramen, Asian journal of Oral and maxillofacial Surgery **18**(3), 93, 2006.(7th Asian Congress on Oral and maxillofacial Surgery, Hong Kong) (1)病理
16. 古澤圭, 藤田佳子, 桑山真寧, 高野正行, 柿澤 卓, 橋本貞充<sup>(1)</sup> : 口蓋に発生したPolymorphous low-grade adenocarcinoma, 日口腔外会誌, 24, 2006.(第182回日本口腔外科学会関東地方会, 旭市) (1)病理
17. 今井崇之, 柿澤 卓, 高野正行, 高崎義人, 横山葉子, 桑山真寧, 藤田佳子, 渡辺玲子, 伊藤哲平 : 三次元インクジェットプリンターによる実物大石膏モデルの口腔外科手術への臨床応用, 日口腔科会誌 **56**(1), 135, 2007.(第60回日本口腔科学会総会, 名古屋市)
18. 小林弥生, 大山定男, 今井崇之, 桑山真寧, 高崎義人, 高野正行, 柿澤 卓 : 実物大臓器立体石膏モデルの顎骨腫瘍に対する臨床応用の有用性, 第25回日本口腔腫瘍学会総会プログラム・抄録集, 140, 2007.(第25回日本口腔腫瘍学会総会, 名古屋市)
19. 山村哲夫, 山田清貴, 高崎義人, 高野正行, 柿澤 卓 : 下顎智歯抜歯後に生じた舌神経麻痺の2例, 第11回口腔顔面神経機能学会プログラム, 2, 2007.(第11回口腔顔面神経機能学会プログラム, 郡山市)
20. 横山葉子, 渡辺玲子, 今井崇之, 高崎義人, 高野正行, 柿澤 卓 : 下顎骨区域切除後に大耳会神経の有利自家移植を行なった1例, 第11回口腔顔面神経機能学会プログラム, 5, 2007.(第11回口腔顔面神経機能学会, 郡山市)
21. 高崎義人, 山村哲夫, 横山葉子, 高野正行, 柿澤 卓, 浜瀬真紀<sup>(1)</sup>, 柴原孝彦<sup>(1)</sup>, 野間弘康<sup>(1)</sup> : 下顎骨切除後における下歯槽神経修復手術後の静的触覚閾値変化, 第11回口腔顔面神経機能学会プログラム, 10, 2007.(第11回口腔顔面神経機能学会, 郡山市) (1)口外

22. Yamada,K., Yama,M.<sup>(1)</sup>, Takaku,Y., Kakizawa,T., Okuda,K.<sup>(2)</sup>, Kato,T.<sup>(2)</sup> : Antimicrobial activity of O- water against oral microorganisms, J Dent Res **86**(Special Issue A), #1135, 2007.(85th General Session & Exhibition of the IADR / AADR / CADR, New Orleans, USA) HRC5A01, CD-ROM (1)口健臨・放射線科,(2)微生物

## 1. 口腔健康臨床科学講座 4) 歯科矯正学分野

### 論 文

1. Shimizu,T.<sup>(1)</sup>, Motegi,E.<sup>(2)</sup>, Nomura,M.<sup>(2)</sup>, Kaneko,Y.<sup>(3)</sup>, Takeuchi,F.<sup>(4)</sup>, Yamaguchi,T.<sup>(5)</sup>, Miyazaki,H., Harazaki,M.<sup>(3)</sup>, Kurihara,S.<sup>(1)</sup>, Yamaguchi,H.<sup>(2)</sup>: Cephalometric study of elderly with nearly intact dental arches, Gerodontology **23**(1), 60~63, 2006. 原著 (1)松本歯大・矯正,(2)矯正,(3)東京都,(4)千葉県,(5)愛知県
2. 吉村亮子, 安部輝美, 宮崎晴代, 小野暁美, 三代真義, 長谷部利一, 坂本輝雄<sup>(1)</sup>, 末石研二, 谷田部賢一, 山口秀晴<sup>(1)</sup>: 東京歯科大学水道橋病院矯正歯科における過去5年間の口唇口蓋裂患者の統計的観察, 日口蓋裂会誌 **31**(1), 39~44, 2006. 原著 (1)矯正
3. 川端薫子, 福井健之<sup>(1)</sup>, 原崎守弘<sup>(2)</sup>, 根津亜希子<sup>(3)</sup>, 坂本輝雄<sup>(3)</sup>, 山口秀晴<sup>(3)</sup>: 矯正歯科治療中の痛みに対する神経開口部へのレーザー照射について(その2) 機械的刺激による痛み緩和メカニズムの検討, 歯科学報 **106**(2), 91~96, 2006. 原著 (1)千葉県,(2)東京都,(3)矯正
4. 林 正樹, 末石研二, 海老原 環, 宮崎晴代, 谷田部賢一, 竹内史江<sup>(1)</sup>, 野嶋邦彦<sup>(2)</sup>, 山口秀晴<sup>(2)</sup>: 東京歯科大学病院矯正歯科におけるヒヤリ・ハット事例の実態調査 予定外で来院した患者からの分析, 歯科学報 **106**(2), 97~104, 2006. 原著 (1)千葉県,(2)矯正

### その他

1. 末石研二: プラン・ドゥ・シー ~これからはじまる学会二日間の序奏~「実習:手術の治療計画を立ててみよう — cephalometric prediction なら何度でも OK—」, 第16回日本顎変形症学会 第2回教育研修会資料, 6~9, 2006.

### 学会抄録

1. 市川秀樹<sup>(1)</sup>, 塩見周平<sup>(1)</sup>, 伊藤亜希<sup>(1)</sup>, 木住野義信<sup>(1)</sup>, 松崎英雄<sup>(1)</sup>, 田中潤一<sup>(1)</sup>, 大島 仁<sup>(1)</sup>, 横田麗子, 宮崎晴代, 末石研二, 渡邊 章<sup>(2)</sup>, 高野伸夫<sup>(2)</sup>, 西村二郎<sup>(3)</sup>: 多施設で治療を行った頭蓋顔面変形症の3例, 日顎変形会誌 **16**(2), 111, 2006.(第16回日本顎変形症学会総会, 千葉市) (1)都立大塚病院口腔科,(2)口外,(3)埼玉小児・形成
2. 末石研二, 山口秀晴<sup>(1)</sup>, 中野洋子<sup>(2)</sup>, 斎藤 力<sup>(3)</sup>: 複合的な手術計画を必要とした反対咬合の1症例, 日顎変形会誌 **16**(2), 112, 2006.(第16回日本顎変形症学会総会, 千葉市) (1)矯正,(2)口外,(3)新潟大・歯・口外
3. 渡辺洋一<sup>(1)</sup>, 神尾 崇<sup>(2)</sup>, 高木多加志<sup>(2)</sup>, 柴原孝彦<sup>(2)</sup>, 末石研二, 山口秀晴<sup>(3)</sup>: 下顎頭の過形成を伴う顔面非対称の治療経験, 日顎変形会誌 **16**(2), 113, 2006.(第16回日本顎変形症学会総会, 千葉市) (1)千葉県,(2)口外,(3)矯正
4. 根岸史郎<sup>(1)</sup>, 坂本輝雄<sup>(1)</sup>, 末石研二, 山口秀晴<sup>(1)</sup>, 中尾 誠<sup>(2)</sup>: 外科的矯正治療後に後に後戻り様相をきたした2症例, 日顎変形会誌 **16**(2), 121, 2006.(第16回日本顎変形症学会総会, 千葉市) (1)矯正,(2)東京都
5. 椎名根子<sup>(1)</sup>, 勝村 麗<sup>(1)</sup>, 川端薫子, 菊地 悠<sup>(1)</sup>, 篠 珠美, 根津亜希子<sup>(1)</sup>, 稲森康二郎<sup>(1)</sup>, 茂木悦子<sup>(1)</sup>, 山口秀晴<sup>(1)</sup>: 外科的治療を受けた骨格性下顎前突者の長期安定性, 日顎変形会誌 **16**(2), 128, 2006.(第16回日本顎変形症学会総会, 千葉市) (1)矯正

6. 桑山真寧<sup>(1)</sup>, 関根亜理沙<sup>(1)</sup>, 渡辺玲子<sup>(1)</sup>, 藤田佳子<sup>(1)</sup>, 今井崇之<sup>(1)</sup>, 高崎義人<sup>(1)</sup>, 高野正行<sup>(1)</sup>, 柿澤 卓<sup>(1)</sup>, 海老原環, 末石研二, 谷田部賢一 : 石膏による実物大顎骨モデルの顎変形症手術への応用, 日顎変形会誌 **16**(2), 133, 2006.(第 16 回日本顎変形症学会総会, 千葉市) (1)口健臨・口外科
7. 海老原 環, 林 正樹, 齊藤千秋<sup>(1)</sup>, 宮崎晴代, 末石研二, 谷田部賢一 : 東京歯科大学水道橋病院矯正歯科における顎変形症患者の臨床統計的検討-2000 年度から 2005 年度について-, 日顎変形会誌 **16**(2), 140, 2006.(第 16 回日本顎変形症学会総会, 千葉市) (1)東京都
8. 宮崎晴代, 末石研二, 谷田部賢一, 高野正行<sup>(1)</sup>, 柿澤 卓<sup>(1)</sup> : 転医後,顎位の不一致を改善するため外科矯正となった一症例, 日顎変形誌 **16**(2), 140, 2006.(第 16 回日本顎変形症学会総会, 千葉市) (1)口健臨・口外科
9. 加納将貴<sup>(1)</sup>, 深川裕子<sup>(1)</sup>, 夫馬明日香<sup>(1)</sup>, 野村真弓<sup>(1)</sup>, 茂木悦子<sup>(1)</sup>, 金成暢<sup>(1)</sup>, 勝村 麗<sup>(1)</sup>, 菊地 悠<sup>(1)</sup>, 篠 珠美, 大峽 潤<sup>(1)</sup>, 山口秀晴<sup>(1)</sup>, 井上恵実, 宮崎晴代, 岡野 繁<sup>(2)</sup>, 松田一郎<sup>(3)</sup> : 三次元画像を用いた 8020 達成者の歯、歯列弓形態の評価 第 1 報 歯と歯列の大きさ, 第 65 回日本矯正歯科学会大会 プログラム・抄録集, 186, 2006.(第 65 回日本矯正歯科学会大会, 札幌市) 保情研 (1)矯正,(2)東歯大・口腔科学研究センター,(3)千葉県歯科医師会
10. 荒川忠博<sup>(1)</sup>, 末石研二, 福井健之<sup>(1)</sup>, 海老原 環, 扇内秀樹<sup>(1)</sup> : 下顎頭形態と顎顔面形態および咬合の経時的関連性について, 日本矯正歯科学会大会 65 回プログラム・抄録集 , 265, 2006.(第 65 回日本矯正歯科学会大会, 北海道札幌) (1)女子医大・口外
11. 末石研二, 井上恵実, 竹井邦夫, 横田麗子, 鶴木祥子, 海老原 環, 林 正樹, 宮崎晴代 : 矯正歯科に初診来院した 18 歳以上の唇顎口蓋裂患者の病像について, 日本矯正歯科学会大会 65 回プログラム・抄録集 , 274, 2006.(第 65 回日本矯正歯科学会大会, 札幌市)
12. 坂本輝雄<sup>(1)</sup>, 早川浩太郎<sup>(2)</sup>, 篠 珠美, 山口秀晴<sup>(1)</sup>, 内山健志<sup>(3)</sup> : 皮質骨骨切り術(Corticotomy)を併用した両側性臼歯部缺状咬合を伴う過蓋咬合症例, 第 65 回日本矯正歯科学会大会 プログラム・抄録集 , 291, 2006.(第 65 回日本矯正歯科学会大会, 札幌市) (1)矯正,(2)東京都,(3)口外
13. 勝村 麗<sup>(1)</sup>, 菊地 悠<sup>(1)</sup>, 椎名根子<sup>(1)</sup>, 稲森康二郎<sup>(2)</sup>, 川端薫子, 篠 珠美, 根津亜希子<sup>(3)</sup>, 茂木悦子<sup>(1)</sup>, 山口秀晴<sup>(1)</sup> : 卒後研修課程第 29 期生による症例展示 , 第 65 回日本矯正歯科学会大会 プログラム・抄録集 , 298, 2006.(第 65 回日本矯正歯科学会大会, 札幌市) (1)矯正,(2)東京都,(3)神奈川県
14. 菊地 悠<sup>(1)</sup>, 勝村 麗<sup>(1)</sup>, 椎名根子<sup>(1)</sup>, 稲森康二郎<sup>(1)</sup>, 川端薫子, 篠 珠美, 根津亜希子<sup>(1)</sup>, 茂木悦子<sup>(1)</sup>, 山口秀晴<sup>(1)</sup> : 卒後研修課程第 29 期生による症例展示 リテンションケース, 日本矯正歯科学会大会 65 回プログラム・抄録集 , 300, 2006.(第 65 回日本矯正歯科学会大会, 札幌市) (1)矯正
15. 勝村 麗<sup>(1)</sup>, 椎名根子<sup>(1)</sup>, 菊地 悠<sup>(1)</sup>, 稲森康二郎<sup>(1)</sup>, 川端薫子, 篠 珠美, 根津亜希子<sup>(1)</sup>, 茂木悦子<sup>(1)</sup>, 山口秀晴<sup>(1)</sup> : 卒後研修課程第 29 期生による症例展示 , 歯科学報 **106**(5), 448, 2006.(第 282 回東京歯科大学学会(総会), 千葉県千葉市) (1)矯正
16. 椎名根子<sup>(1)</sup>, 稲森康二郎<sup>(1)</sup>, 川端薫子, 勝村 麗<sup>(1)</sup>, 菊地 悠<sup>(1)</sup>, 篠 珠美, 根津亜希子<sup>(1)</sup>, 茂木悦子<sup>(1)</sup>, 山口秀晴<sup>(1)</sup> : 卒後研修課程第 29 期生による症例展示 リテンションケース, 歯科学報 **106**(5), 449, 2006.(第 282 回東京歯科大学学会(総会), 千葉市) (1)矯正

17. 加納将貴<sup>(1)</sup>, 深川裕子<sup>(1)</sup>, 夫馬明日香<sup>(1)</sup>, 金成暢<sup>(1)</sup>, 勝村 麗<sup>(1)</sup>, 菊地 悠<sup>(1)</sup>, 大峽 潤<sup>(1)</sup>, 野村真弓<sup>(1)</sup>, 茂木悦子<sup>(1)</sup>, 山口秀晴<sup>(1)</sup>, 篠 珠美, 井上恵実, 鶴木祥子, 宮崎晴代 : 8020 達成者における口腔内石膏模型 三次元画像計測を用いた加齢様相, 歯科学報 **106**(5), 449, 2006.(第 282 回東京歯科学会(総会), 千葉市) 保情研 (1)矯正

## 1. 口腔健康臨床科学講座 5) 小児歯科学分野

### 論 文

1. 大多和由美, 望月清志, 辻野啓一郎, 野村 仰<sup>(1)</sup>, 一戸達也<sup>(1)</sup>, 薬師寺 仁<sup>(2)</sup>, 金子 譲<sup>(1)</sup>, 田中賦彦<sup>(3)</sup>, 横田 惇<sup>(3)</sup>, 森山 憲一<sup>(3)</sup>: 地域保健センターと他施設との医療連携の実態 —特に大学病院との病診連携による対応が有効であった症例—, 障害者歯 **27**(4), 581~587, 2006. 臨床 (1)歯麻,(2)小児歯,(3)練馬区歯科医師会
2. 辻野啓一郎, 齋田菜緒子<sup>(1)</sup>, 谷田部純子<sup>(1)</sup>, 福田謙一<sup>(1)</sup>, 大多和由美, 望月清志, 金子かおり, 池田正一<sup>(2)</sup>, 柿澤 卓<sup>(3)</sup>: 東京歯科大学水道橋病院における障害者全身麻酔下歯科治療の現状, 歯科学報 **107**(1), 96~101, 2007. 臨床 (1)口健臨・麻酔科,(2)水道橋病院,(3)口健臨・口外科

### 解 説

1. 望月清志: 乳歯が早期喪失に至った場合の対応法, 日歯評論 **66**(11), 77~80, 2006.

### 学会抄録

1. Mochizuki,K., Tsujino,K., Ohtawa,Y., Yakushiji,M.<sup>(1)</sup>, Nomura,K.<sup>(2)</sup>, Ichinohe,T.<sup>(3)</sup>, Kaneko,Y.<sup>(3)</sup>: Dental care for the disabled in public dental clinics, J Dent Res **85**(Spec Iss B), 653, 2006.(84st General Session & Exhibition of IADR, Brisbane, Australia) CD-ROM (1)小児歯,(2)東京都,(3)歯麻
2. 辻野啓一郎, 齋田菜緒子<sup>(1)</sup>, 谷田部純子<sup>(1)</sup>, 福田謙一<sup>(1)</sup>, 大多和由美, 望月清志, 池田正一<sup>(2)</sup>, 柿澤 卓<sup>(3)</sup>: 東京歯科大学水道橋病院における障害者全身麻酔下歯科治療の現状, 障害者歯 **27**(3), 459, 2006.(第23回日本障害者歯科学会総会および学術大会, 仙台市) (1)口健臨・麻酔科,(2)水道橋病院,(3)口健臨・口外科
3. 松浦信幸<sup>(1)</sup>, 今井裕樹<sup>(2)</sup>, 福山達郎<sup>(2)</sup>, 笠原正貴<sup>(3)</sup>, 大多和由美, 一戸達也<sup>(1)</sup>, 薬師寺 仁<sup>(2)</sup>, 金子 譲<sup>(1)</sup>, 藤橋 修<sup>(4)</sup>, 犬飼茂久<sup>(4)</sup>: 日帰り全身麻酔下に歯科治療を行ったElejalde症候群の1例, 障害者歯 **27**(3), 349, 2006.(第23回日本障害者歯科学会学術大会, 仙台市) (1)歯麻,(2)小児歯,(3)口健臨・麻酔科,(4)東京都
4. 大多和由美, 林 佐智代<sup>(1)</sup>, 大森勇市郎<sup>(1)</sup>, 大峰浩隆<sup>(1)</sup>, 鈴木潤一<sup>(1)</sup>: 「口腔センター」に対する患者さんのニーズと歯科医のニーズとは?, 第15回茨城県歯科医学会抄録集, 21, 2007.(第15回茨城県歯科医学会, 水戸市) (1)茨城県

## 1. 口腔健康臨床科学講座 6) 歯科麻酔学分野

### 論 文

1. 櫻井 誠<sup>(1)</sup>, 福田謙一, 高北義彦, 半田俊之<sup>(2)</sup>, 一戸達也<sup>(2)</sup>, 金子 譲<sup>(2)</sup>: Infusion pumpはミダゾラム静脈内鎮静法に有用である, 日歯麻会誌 **34**(2), 189~192, 2006. 臨床 (1)千葉県,(2)歯麻
2. 宮尾真理子<sup>(1)</sup>, 福田謙一, 高北義彦, 笠原正貴, 杉山あや子<sup>(2)</sup>, 一戸達也<sup>(1)</sup>, 金子 譲<sup>(1)</sup>: 術後1年以内に2度の自然気胸を発生した下顎前突症患者の全身麻酔経験, 日歯麻会誌 **34**(2), 221~222, 2006. 症例 (1)歯麻, (2)都立墨東病院・歯口外
3. 田村洋平<sup>(1)</sup>, 福田謙一, 齋田菜緒子, 谷田部純子, 飯田和美, 湯村潤子<sup>(1)</sup>, 半田俊之<sup>(1)</sup>, 笠原正貴<sup>(1)</sup>, 高北義彦, 一戸達也<sup>(1)</sup>, 金子 譲<sup>(1)</sup>: 歯科麻酔外来における「リラックス歯科治療外来」の動向, 日歯麻会誌 **34**(2), 225~226, 2006. 臨床 (1)歯麻
4. 山崎貴希<sup>(1)</sup>, 福田謙一, 笠原正貴, 平山 明<sup>(2)</sup>, 高北義彦, 一戸達也<sup>(1)</sup>, 金子 譲<sup>(1)</sup>: 統合失調症患者に対するプロポフォール全身麻酔経験2症例, 日歯麻会誌 **34**(2), 227~228, 2006. 症例 (1)歯麻,(2)千葉県
5. 湯村潤子<sup>(1)</sup>, 笠原正貴, 福田謙一, 高北義彦, 田村洋平<sup>(1)</sup>, 櫻井 誠<sup>(2)</sup>, 金子完子<sup>(3)</sup>, 一戸達也<sup>(1)</sup>, 金子 譲<sup>(1)</sup>: Microcephalic osteodysplastic primordial dwarfism II型 患者に対する日帰り全身麻酔経験, 日歯麻会誌 **34**(2), 285~286, 2006. 症例 (1)歯麻,(2)千葉県,(3)都立豊島病院・歯口外
6. 梅安理絵<sup>(1)</sup>, 福田謙一, 高北義彦, 笠原正貴, 一戸達也<sup>(1)</sup>, 金子 譲<sup>(1)</sup>: 診療後に待合室から歯科麻酔科緊急コールがあった2症例, 日歯麻会誌 **34**(3), 292~293, 2006. 症例 (1)歯麻
7. 久保浩太郎<sup>(1)</sup>, 福永敦翁<sup>(2)</sup>, 櫻井 学<sup>(1)</sup>, 笠原正貴, 高北義彦, 一戸達也<sup>(1)</sup>, 金子 譲<sup>(1)</sup>: 新しい麻酔ガス節約システム—F-conomy Type II System—の検討, Med Gas **8**, 34~36, 2006. 臨床 (1)歯麻,(2)UCLA Harbor Medical Center
8. Hayashida,M.<sup>(1)</sup>, Fukunaga,A.<sup>(2)</sup>, Fukuda,K., Mamiya,H.<sup>(3)</sup>, Ichinohe,T.<sup>(3)</sup>, Kaneko,Y.<sup>(3)</sup>, Hanaoka,K.<sup>(4)</sup>: The characteristics of intravenous adenosine-induced antinociception in a rabbit model of acute nociceptive pain: A comparative study with remifentanyl, Anesth Analg **103**(4), 1004~1010, 2006. 原著 (1)東大・医科研・麻酔,(2)UCLA Harbor Medical Center,(3)歯麻,(4)東大・医 麻酔
9. Fukuda,K., Hayashida,M.<sup>(1)</sup>, Fukunaga,A.<sup>(2)</sup>, Kasahara,M., Koukita,Y., Ichinohe,T.<sup>(3)</sup>, Kaneko,Y.<sup>(3)</sup>: Pain-relieving effects of intravenous ATP in chronic intractable orofacial pain: an open-label study, J Anesth **21**(1), 244~30, 2007. 原著 (1)東大・医科研・麻酔,(2)UCLA Harbor Medical Center,(3)歯麻

### 解 説

1. 笠原正貴, 福田謙一: 特集・中国における口腔顔面痛の治療 日本における口腔顔面痛治療の現状, 日中医学 **21**(3), 17~22, 2007.

2. 福田謙一, 一戸達也<sup>(1)</sup> : 歯科医院における口腔顔面痛の診断—う蝕症や歯周病でない痛みを訴える患者が来院した時—, 千葉県歯科医学会誌(2), 2007. (1)歯麻

## プロシーディングス

1. Fukuda,K. : Acute State of Nerve injury following implant Surgery and its Treatment in Orofacial Pain Clinic, 11th International Dental Congress on Modern Pain Control Proceedings, 61, 2006.(11th International Dental Congress on Modern Pain Control, Yokohama)
2. Ito,S.<sup>(1)</sup>, Torii,M.<sup>(1)</sup>, Kasahara,M., Fukuda,K., Koukita,Y., Ichinohe,T.<sup>(2)</sup>, Kaneko,Y.<sup>(2)</sup> : Does intraligamentary anesthesia MAR the healing of extraction sockets?, 11th International Dental Congress on Modern Pain Control Proceedings, 93, 2006.(11th International Dental Congress on Modern Pain Control , Yokohama) (1)静岡県,(2)歯麻
3. Aida,H.<sup>(1)</sup>, Fukunaga,A.<sup>(2)</sup>, Sakurai,S.<sup>(1)</sup>, Fukuda,K., Kasahara,M., Ichinohe,T.<sup>(1)</sup>, Kaneko,Y.<sup>(1)</sup> : Sedative and analgesic effects of intravenous adenosine and ATP in healthy volunteers, 11th International Dental Congress on Modern Pain Control Proceedings, 95, 2006.(11th International Dental Congress on Modern Pain Control, Yokohama) (1)歯麻,(2)UCLA Harbor Medical Center
4. Ito,S.<sup>(1)</sup>, Torii,M.<sup>(1)</sup>, Kasahara,M., Fukuda,K., Koukita,Y., Ichinohe,T.<sup>(2)</sup>, Kaneko,Y.<sup>(2)</sup> : Intravenous sedation for elderly in the dental clinic, 11th International Dental Congress on Modern Pain Control Proceedings , 106, 2006.(11th International Dental Congress on Modern Pain Control, Yokohama) (1)静岡県,(2)歯麻
5. Handa,T.<sup>(1)</sup>, Fukuda,K., Hayashida,M.<sup>(2)</sup>, Fukunaga,A.<sup>(3)</sup>, Koukita,Y., Ichinohe,T.<sup>(1)</sup>, Kaneko,Y.<sup>(1)</sup> : Effect of intraoperative Intravenous Infusion of Adenosine 5'-Triphosphate on Intraoperative Hemodynamics and Postoperative Pain in Patients undergoing Major Orofacial Surgery, 11th International Dental Congress on Modern Pain Control Proceedings, 113, 2006.(11th International Dental Congress on Modern Pain Control , Yokohama) (1)歯麻,(2)東大・医科研・麻酔,(3)UCLA Harbor Medical Center
6. Saita,N., Fukuda,K., Yatabe,J., Kaneko,M.<sup>(1)</sup>, Koukita,Y., Ichinohe,T.<sup>(2)</sup>, Kaneko,Y.<sup>(2)</sup> : Which Anesthesia is Suitable for Ambulatory Anesthesia: Propofol with Nitrous Oxide versus Sevoflurane with Nitrous Oxide, 11th International Dental Congress on Modern Pain Control Proceedings, 115, 2006.(11th International Dental Congress on Modern Pain Control , Yokohama) (1)都立豊島病院・歯口外,(2)歯麻
7. Okazaki,K.<sup>(1)</sup>, Kasahara,M., Fukunaga,A.<sup>(2)</sup> : Use of Apparatus Dead Space Improves Arterial Blood Oxygenation and Airway Humidity in Patients undergoing Prolonged Surgery. The Role of Rebreathing, 11th International Dental Congress on Modern Pain Control Proceedings, 115, 2006.(11th International Dental Congress on Modern Pain Control , Yokohama) (1)横浜市大・医・麻酔,(2)UCLA Harbor Medical Center
8. Kasahara,M., Fukunaga,A.<sup>(1)</sup>, Fukuda,K., Koukita,Y., Ichinohe,T.<sup>(2)</sup>, Kaneko,Y.<sup>(2)</sup> : An integrated Anesthetic Gas Delivery System for Low-Flow Anesthesia, 11th International Dental Congress on Modern Pain Control Proceedings, 119, 2006.(11th International Dental Congress on Modern Pain Control , Yokohama) (1)UCLA Harbor Medical Center,(2)歯麻



9. Kasahara,M., Sakurai,S.<sup>(1)</sup>, Fukuda,K., Koukita,Y., Okazaki,K.<sup>(2)</sup>, Fukunaga,A.<sup>(3)</sup>, Ichinohe,T.<sup>(1)</sup>, Kaneko,Y.<sup>(1)</sup> : A Convertible Gas Delivery Circle CO2 Absorption Anesthesia System, 11th International Dental Congress on Modern Pain Control Program and Abstract, 119, 2006.(11th International Dental Congress on Modern Pain Control , Yokohama) (1)歯麻,(2)横浜市大・医・麻酔,(3)UCLA Harbor Medical Center
10. Koukita,Y., Fukunaga,A.<sup>(1)</sup>, Kasahara,M., Fukuda,K., Ichinohe,T.<sup>(2)</sup>, Kaneko,Y.<sup>(2)</sup> : Changes in inspired/ Delivered Anesthetic Gas Concentration Ratio and Anesthetic Consumption During Low-Flow Sevoflurane Anesthesia, 11th International Dental Congress on Modern Pain Control Proceedings, 120, 2006.(11th International Dental Congress on Modern Pain Control , Yokohama) (1)UCLA Harbor Medical Center,(2)歯麻
11. Fukuda,K., Hayashida,M.<sup>(1)</sup>, Fukunaga,A.<sup>(2)</sup>, Kasahara,M., Koukita,Y., Ichinohe,T.<sup>(3)</sup>, Kaneko,Y.<sup>(3)</sup> : Intravenous ATP Infusion for Neuropathic Pain Following Pulpectomy and Tooth Extraction: A Double-Blind Placebo-Controlled Cross-Over Study, 11th International Dental Congress on Modern Pain Control Proceedings, 134, 2006.(11th International Dental Congress on Modern Pain Control , Yokohama) (1)東大・医科研・麻酔,(2)UCLA Harbor Medical Center,(3)歯麻
12. Fukuda,K., Hayashida,M.<sup>(1)</sup>, Fukunaga,A.<sup>(2)</sup>, Kasahara,M., Koukita,Y., Ichinohe,T.<sup>(3)</sup>, Kaneko,Y.<sup>(3)</sup> : Intravenous ATP Infusion for Chronic Orofacial Pain: An Open-Label Study, 11th International Dental Congress on Modern Pain Control Proceedings, 134, 2006.(11th International Dental Congress on Modern Pain Control , Yokohama) (1)東大・医科研・麻酔,(2)UCLA Harbor Medical Center,(3)歯麻
13. Fukuda,K., Saita,N., Kasahara,M., Hayashida,M.<sup>(1)</sup>, Koukita,Y., Ichinohe,T.<sup>(2)</sup>, Kaneko,Y.<sup>(2)</sup> : Unaccountable Masticatory Pain may have a Component of Sympathetically Maintained Pain, 11th International Dental Congress on Modern Pain Control Proceedings, 137, 2006.(11th International Dental Congress on Modern Pain Control , Yokohama) (1)東大・医科研・麻酔,(2)歯麻
14. Handa,M., Iida,K., Fukuda,K., Sugiyama,A.<sup>(1)</sup>, Ichinohe,T.<sup>(2)</sup>, Kaneko,Y.<sup>(2)</sup> : Prolonged injection time and pre-administration of vecuronium decrease the incidence of fentanyl induced cough, 11th International Dental Congress on Modern Pain Control Program and Abstracts, 111, 2006.(11th International Dental Congress on Modern Pain Control, Yokohama) (1)Dept. of Oral surg, Bokuto Hospital,(2)歯麻

## その他

1. 福田謙一 : 「歯科医の時間」リラックス歯科治療外来, ラジオ NIKKEI, 2007.

## 学会抄録

1. 福田謙一 : 「歯科領域の判別困難な“痛み”への対応」特別講演, 平成 18 年日本歯科麻酔学会 北海道地方会 第 21 回 北海道臨床歯科麻酔研究会 プログラム 講演内容抄録, 2006.(平成 18 年日本歯科麻酔学会 北海道地方会 第 21 回 北海道臨床歯科麻酔研究会, 帯広市)
2. 松浦信幸<sup>(1)</sup>, 北村享之<sup>(2)</sup>, 大辻幹哉<sup>(2)</sup>, 折井 亮<sup>(2)</sup>, 半田麻里子, 松木由起子<sup>(1)</sup> : 生体肝移植症例の全身麻酔導入時の際は、血清カリウム上昇に注意が必要である, J Anesth **20**(suppl), P1-05-04, 2006.(日本麻酔科学会第 53 回学術集会, 神戸市) CD-ROM (1)歯麻,(2)東大・医・麻酔

3. 湯村潤子<sup>(1)</sup>, 高北義彦, 齋田菜緒子, 谷田部純子, 福田謙一, 一戸達也<sup>(1)</sup>, 金子 譲<sup>(1)</sup> : フレキシブルラリンジアル(FLAM)抜去直後に過換気症候群を発祥した1症例, 第23回関東臨床歯科麻酔懇話会 抄録集, 2006.(第23回関東臨床歯科麻酔懇話会(日本歯科麻酔学会地方会), 横浜市) (1)歯麻
4. 小川志保, 福田謙一, 笠原正貴, 齋田菜緒子, 谷田部純子, 半田麻里子, 高北義彦, 湯村潤子<sup>(1)</sup>, 一戸達也<sup>(1)</sup>, 金子 譲<sup>(1)</sup> : フェンタニルは量依存性に入眠時プロポフォール予測脳内濃度を低下させる, 日歯麻会誌 **34**(4), 69, 2006.(第34回日本歯科麻酔学会総会, 横浜市) (1)歯麻
5. 笠原正貴, 福田謙一, 高北義彦, 一戸達也<sup>(1)</sup>, 金子 譲<sup>(1)</sup> : 星状神経節ブロック施行後頸部において著しい血腫をきたした一症例, 日歯麻会誌 **34**(4), 97, 2006.(第34回日本歯科麻酔学会総会, 横浜市) (1)歯麻
6. 笠原正貴, 梅安理絵<sup>(1)</sup>, 福田謙一, 高北義彦, 一戸達也<sup>(1)</sup>, 金子 譲<sup>(1)</sup> : 星状神経節ブロック施行期間中に生じた喉頭肉芽腫による嘔声の一症例, 日歯麻会誌 **34**(4), 98, 2006.(第34回日本歯科麻酔学会総会, 横浜市) (1)歯麻
7. 笠原正貴 : シンポジウム 関連痛のメカニズムと臨床的アプローチ 臨床像を裏付ける神経生理学的メカニズム, 第7回口腔顔面痛学会学術集会 プログラム, 2006.(第7回口腔顔面痛学会学術集会, 横浜市)
8. Fukuda,K. : Acute State of Nerve injury following implant Surgery and its Treatment in Orofacial Pain Clinic, 11th International Dental Congress on Modern Pain Control Program and Abstract, 106, 2006.(11th International Dental Congress on Modern Pain Control, Yokohama)
9. Ito,S.<sup>(1)</sup>, Torii,M.<sup>(1)</sup>, Kasahara,M., Fukuda,K., Koukita,Y., Ichinohe,T.<sup>(2)</sup>, Kaneko,Y.<sup>(2)</sup> : Does intraligamentary anesthesia MAR the healing of extraction sockets?, 11th International Dental Congress on Modern Pain Control Program and Abstracts, 151, 2006.(11th International Dental Congress on Modern Pain Control , Yokohama) (1)静岡県, (2)歯麻
10. Aida,H.<sup>(1)</sup>, Fukunaga,A.<sup>(2)</sup>, Sakurai,S.<sup>(1)</sup>, Fukuda,K., Kasahara,M., Ichinohe,T.<sup>(1)</sup>, Kaneko,Y.<sup>(1)</sup> : Sedative and analgesic effects of intravenous adenosine and ATP in healthy volunteers, 11th International Dental Congress on Modern Pain Control Program and Abstracts, 153, 2006.(11th International Dental Congress on Modern Pain Control, Yokohama) (1)歯麻,(2)UCLA Harbor Medical Center
11. Ito,S.<sup>(1)</sup>, Torii,M.<sup>(1)</sup>, Kasahara,M., Fukuda,K., Koukita,Y., Ichinohe,T.<sup>(2)</sup>, Kaneko,Y.<sup>(2)</sup> : Intravenous sedation for elderly in the dental clinic, 11th International Dental Congress on Modern Pain Control Program and Abstract , 164, 2006.(11th International Dental Congress on Modern Pain Control, Yokohama) (1)静岡県,(2)歯麻
12. Handa,M., Iida,K., Fukuda,K., Sugiyama,A.<sup>(1)</sup>, Ichinohe,T.<sup>(2)</sup>, Kaneko,Y.<sup>(2)</sup> : Prolonged injection time and pre-administration of vecuronium decrease the incidence of fentanyl induced cough, 11th International Dental Congress on Modern Pain Control Program and Abstract, 169, 2006.(11th International Dental Congress on Modern Pain Control, Yokohama) (1)Dept. of Oral surg, Bokuto Hospital,(2)歯麻
13. Handa,T.<sup>(1)</sup>, Fukuda,K., Hayashida,M.<sup>(2)</sup>, Fukunaga,A.<sup>(3)</sup>, Koukita,Y., Ichinohe,T.<sup>(1)</sup>, Kaneko,Y.<sup>(1)</sup> : Effect of intraoperative Intravenous Infusion of Adenosine 5'-Triphosphate on Intraoperative Hemodynamics and Postoperative Pain in Patients undergoing Major Orofacial Surgery, 11th International Dental Congress on Modern Pain Control Program and Abstract, 171, 2006.(11th International Dental Congress on Modern Pain Control , Yokohama) (1)歯麻,(2)東大・医科研・麻酔,(3)UCLA Harbor Medical Center

14. Saita,N., Fukuda,K., Yatabe,J., Kaneko,M.<sup>(1)</sup>, Koukita,Y., Ichinohe,T.<sup>(2)</sup>, Kaneko,Y.<sup>(2)</sup> : Which Anesthesia is Suitable for Ambulatory Anesthesia: Propofol with Nitrous Oxide versus Sevoflurane with Nitrous Oxide, 11th International Dental Congress on Modern Pain Control Program and Abstract, 173, 2006.(11th International Dental Congress on Modern Pain Control , Yokohama) (1)都立豊島病院・歯口外,(2)歯麻
15. Okazaki,K.<sup>(1)</sup>, Kasahara,M., Fukunaga,A.<sup>(2)</sup> : Use of Apparatus Dead Space Improves Arterial Blood Oxygenation and Airway Humidity in Patients undergoing Prolonged Surgery. The Role of Rebreathing, 11th International Dental Congress on Modern Pain Control Program and Abstract, 173, 2006.(11th International Dental Congress on Modern Pain Control , Yokohama) (1)横浜市大・医・麻酔,(2)UCLA Harbor Medical Center
16. Kasahara,M., Fukunaga,A.<sup>(1)</sup>, Fukuda,K., Koukita,Y., Ichinohe,T.<sup>(2)</sup>, Kaneko,Y.<sup>(2)</sup> : An integrated Anesthetic Gas Delivery System for Low-Flow Anesthesia, 11th International Dental Congress on Modern Pain Control Program and Abstract, 177, 2006.(11th International Dental Congress on Modern Pain Control , Yokohama) (1)UCLA Harbor Medical Center,(2)歯麻
17. Kasahara,M., Sakurai,S.<sup>(1)</sup>, Fukuda,K., Koukita,Y., Okazaki,K.<sup>(2)</sup>, Fukunaga,A.<sup>(3)</sup>, Ichinohe,T.<sup>(1)</sup>, Kaneko,Y.<sup>(1)</sup> : A Convertible Gas Delivery Circle CO2 Absorption Anesthesia System, 11th International Dental Congress on Modern Pain Control Program and Abstract, 177, 2006.(11th International Dental Congress on Modern Pain Control , Yokohama) (1)歯麻,(2)横浜市大・医・麻酔,(3)UCLA Harbor Medical Center
18. Koukita,Y., Fukunaga,A.<sup>(1)</sup>, Kasahara,M., Fukuda,K., Ichinohe,T.<sup>(2)</sup>, Kaneko,Y.<sup>(2)</sup> : Changes in inspired/ Delivered Anesthetic Gas Concentration Ratio and Anesthetic Consumption During Low-Flow Sevoflurane Anesthesia, 11th International Dental Congress on Modern Pain Control Program and Abstract, 178, 2006.(11th International Dental Congress on Modern Pain Control , Yokohama) (1)UCLA Harbor Medical Center,(2)歯麻
19. Fukuda,K., Hayashida,M.<sup>(1)</sup>, Fukunaga,A.<sup>(2)</sup>, Kasahara,M., Koukita,Y., Ichinohe,T.<sup>(3)</sup>, Kaneko,Y.<sup>(3)</sup> : Intravenous ATP Infusion for Neuropathic Pain Following Pulpectomy and Tooth Extraction: A Double-Blind Placebo-Controlled Cross-Over Study, 11th International Dental Congress on Modern Pain Control Program and Abstract, 192, 2006.(11th International Dental Congress on Modern Pain Control , Yokohama) (1)東大・医科研・麻酔,(2)UCLA Harbor Medical Center,(3)歯麻
20. Fukuda,K., Hayashida,M.<sup>(1)</sup>, Fukunaga,A.<sup>(2)</sup>, Kasahara,M., Koukita,Y., Ichinohe,T.<sup>(3)</sup>, Kaneko,Y.<sup>(3)</sup> : Intravenous ATP Infusion for Chronic Orofacial Pain: An Open-Label Study, 11th International Dental Congress on Modern Pain Control Program and Abstract, 192, 2006.(11th International Dental Congress on Modern Pain Control , Yokohama) (1)東大・医科研・麻酔,(2)UCLA Harbor Medical Center,(3)歯麻
21. Fukuda,K., Saita,N., Kasahara,M., Hayashida,M.<sup>(1)</sup>, Koukita,Y., Ichinohe,T.<sup>(2)</sup>, Kaneko,Y.<sup>(2)</sup> : Unaccountable Masticatory Pain may have a Component of Sympathetically Maintained Pain, 11th International Dental Congress on Modern Pain Control program and Abstract, 195, 2006.(11th International Dental Congress on Modern Pain Control , Yokohama) (1)東大・医科研・麻酔,(2)歯麻
22. 半田麻里子, 福田謙一, 林田真和<sup>(1)</sup>, 一戸達也<sup>(2)</sup>, 金子 譲<sup>(2)</sup> : フェンタニルの一回静脈内投与による咳反射の予防に対する検討, 日臨麻会誌 **26**(6), S372, 2006.(日本臨床麻酔学会第 26 回大会, 旭川市) (1)東大・医科研・麻酔, (2)歯麻

23. 福田謙一, 齋藤 浩<sup>(1)</sup>, 平山 明<sup>(1)</sup>, 西内千明<sup>(1)</sup>, 杉山あや子<sup>(2)</sup>, 一戸達也<sup>(3)</sup>, 金子 譲<sup>(3)</sup> : 当施設における障害者・要介護高齢者歯科治療時静脈麻酔・精神鎮静法の検討, 障害者歯 **27**(3), 335, 2006.(第23回日本障害者歯科学会学術大会, 仙台市) (1)千葉県,(2)都立墨東病院・歯口外,(3)歯麻
24. 松浦信幸<sup>(1)</sup>, 今井裕樹<sup>(2)</sup>, 福山達郎<sup>(2)</sup>, 笠原正貴, 大多和由美<sup>(3)</sup>, 一戸達也<sup>(1)</sup>, 薬師寺 仁<sup>(2)</sup>, 金子 譲<sup>(1)</sup>, 藤橋 修<sup>(4)</sup>, 犬飼茂久<sup>(4)</sup> : 日帰り全身麻酔下に歯科治療を行ったElejalde症候群の1例, 障害者歯 **27**(3), 349, 2006.(第23回日本障害者歯科学会学術大会, 仙台市) (1)歯麻,(2)小児歯,(3)口健臨・小児歯科,(4)東京都
25. 齋田菜緒子, 福田謙一, 杉山あや子<sup>(1)</sup>, 金子完子<sup>(2)</sup>, 一戸達也<sup>(3)</sup>, 金子 譲<sup>(3)</sup> : 喘息重積発作を繰り返していた歯科恐怖症患者の全身麻酔経験, 障害者歯 **27**(3), 481, 2006.(第23回日本障害者歯科学会学術大会, 仙台市) (1)都立墨東病院・歯口外,(2)都立豊島病院・歯口外,(3)歯麻
26. 湯村潤子<sup>(1)</sup>, 一戸達也<sup>(1)</sup>, 齋田菜緒子, 福田謙一, 高北義彦, 金子 譲<sup>(1)</sup> : Flexible Laryngeal Mask Airway(FLMA)挿入時のプロポフォル至適効果部位濃度について, 日歯麻会誌 **34**(4), 69, 2006.(第34回日本歯科麻酔学会総会, 横浜市) (1)歯麻
27. 福田謙一, 笠原正貴, 齋田菜緒子, 谷田部純子, 半田麻里子, 高北義彦, 一戸達也<sup>(1)</sup>, 金子 譲<sup>(1)</sup>, 福永敦翁<sup>(2)</sup> : 外来におけるアデノシン三リン酸持続静脈内投与 103 症例の使用経験, 日歯麻会誌 **34**(4), 96, 2006.(第34回日本歯科麻酔学会総会, 横浜市) (1)歯麻,(2)Dept. Anesthesiology, Univ. California
28. Fukuda,K. : Treatments for Orofacial Pain in Japan, Annual Conference of Pain Branch Association of Shaanxi Medical Association Dissertation Assemble Program, 2006.(Annual Conference of Pain Branch Association of Shaanxi Medical Association Dissertation Assemble, Xi'an,China)

## 1. 口腔健康臨床科学講座 7) 口腔インプラント学分野

### 論 文

1. 関根秀志：下顎無歯顎患者に対して即時負荷を試みた症例，歯科学報 **107**(2), 192, 2007. 臨床

### 解 説

1. 関根秀志，木津康博<sup>(1)</sup>，山根源之<sup>(1)</sup>：ジーシーインプラントシステムの臨床応用，インプラント YEAR BOOK 2007, 87～94, 2007. 別冊the Quintessence (1)市病・オーラルメディスン

### 学会抄録

1. 田口達夫，関根秀志，井上敬介<sup>(1)</sup>，瀬田修一<sup>(2)</sup>，高野正行<sup>(2)</sup>，柿澤 卓<sup>(2)</sup>，山上美樹<sup>(1)</sup>：上顎洞底挙上術を用いてインプラント治療を行った一症例，歯科学報 **106**(2), 126, 2006.(第 281 回東京歯科大学学会，千葉市) (1)口健臨・補綴科,(2)口健臨・口外科
2. 関根秀志，高際 睦<sup>(1)</sup>：インプラント上部構造固定用スクリューの締結順序がアバットメントに発生する歪みにおよぼす影響，歯科学報 **106**(2), 63, 2006.(第 281 回東京歯科大学学会，千葉市) (1)数学
3. 松崎文頼，永島絵梨奈<sup>(1)</sup>，山本るみ<sup>(1)</sup>，大貫智宏<sup>(1)</sup>，栗田 麗<sup>(1)</sup>，山上美樹<sup>(1)</sup>，井上敬介<sup>(1)</sup>，田口達夫，関根秀志，安達 康<sup>(1)</sup>：イミディエートローディングにて咬合を回復した患者の評価，第 36 回日本口腔インプラント学会総会・学術大会抄録集，225, 2006.(第 36 回日本口腔インプラント学会学術大会，新潟市) (1)口健臨・補綴科
4. 田口達夫，関根秀志，松崎文頼，山上美樹<sup>(1)</sup>，井上敬介<sup>(1)</sup>，武田孝之，安達 康<sup>(1)</sup>：上顎洞を避けて既存骨内にインプラントを意図的に傾斜埋入して咬合再構成した一症例，第 36 回日本口腔インプラント学会総会・学術大会抄録集，248, 2006.(第 36 回日本口腔インプラント学会学術大会，新潟市) (1)口健臨・補綴科

## 1. 口腔健康臨床科学講座 8) 総合歯科学分野

### 論 文

1. 古澤成博, 高橋潤一<sup>(1)</sup>, 磯山素子<sup>(2)</sup>, 北村佳子<sup>(2)</sup>, 茂木知子<sup>(2)</sup>, 上島文江<sup>(2)</sup>, 中浜典子<sup>(2)</sup>, 荒木みさ子<sup>(2)</sup>, 六川泰子<sup>(3)</sup>, 高橋義一<sup>(4)</sup>, 槇石武美<sup>(1)</sup>, 谷田部賢一<sup>(5)</sup>: TBIを採り入れた口腔健診の口腔清掃状態に与える効果, 歯科学報 **106**(6), 500~504, 2006. 原著 (1)口健臨・保存科,(2)東歯大・水病・歯科衛生士部,(3)神奈川県,(4)社会歯,(5)口健臨・矯正科

### 学会抄録

1. 早川裕記, 野嶋昌彦<sup>(1)</sup>, 古澤成博: 顎位不安定な義歯をゴシックアーチ描記法にて改善し再作製した 1 症例, 歯科学報 **106**(2), 123, 2006.(第 281 回東京歯科大学学会(例会), 千葉市) (1)東京都
2. 伊藤真輝<sup>(1)</sup>, 鈴木道子<sup>(1)</sup>, 古澤成博: 中等度慢性歯周炎の患者に対し、歯周外科処置を行った症例, 第 281 回東京歯科大学学会(例会)プログラム, 24, 2006.(第 281 回東京歯科大学学会(例会), 千葉市) (1)東京都
3. 小貫瑞穂, 細川壮平, 関根珠里亜, 根本詩子, 早川裕記, 大迫美穂, 瀬田修一<sup>(1)</sup>, 吉田 隆<sup>(2)</sup>, 古澤成博: エックス線診により歯根嚢胞と思われた歯原性角化嚢胞の 1 症例, 歯科学報 **106**(5), 451, 2006.(第 282 回東京歯科大学学会(総会), 千葉市) (1)口健臨・口外科,(2)口健臨・保存科

## 1. 口腔健康臨床科学講座 9) 歯科放射線学分野

### 学会抄録

1. 相澤光博<sup>(1)</sup>, 山本正紀<sup>(1)</sup>, 高野正行<sup>(2)</sup>, 柿澤 卓<sup>(2)</sup>, 西川慶一<sup>(3)</sup>, 佐野 司<sup>(3)</sup>, 村上伸一<sup>(4)</sup>: X線CT画像からの骨領域高精度自動抽出の試み 第2報 3次元リージョンローイング法の検討, 歯科学報 **106**(2), 114, 2006.(第281回東京歯科大学学会(例会), 千葉市) (1)東歯大・水病・放科,(2)口健臨・口外科,(3)歯放,(4)東京電機大・工
2. 相澤光博<sup>(1)</sup>, 山本正紀<sup>(1)</sup>, 高野正行<sup>(2)</sup>, 柿澤 卓<sup>(2)</sup>, 西川慶一<sup>(3)</sup>, 佐野 司<sup>(3)</sup>, 村上伸一<sup>(4)</sup>: 3次元リージョンローイング法によるX線CT画像からの骨領域高精度自動抽出の試み, 日本放射線技術学会東京部会雑誌(100), 56~57, 2006.(日本放射線技術学会第60回東京部会春期学術大会, 東京) (1)東歯大・水病・放科,(2)口健臨・口外科,(3)歯放,(4)東京電機大・工
3. 相澤光博<sup>(1)</sup>, 山本正紀<sup>(1)</sup>, 高野正行<sup>(2)</sup>, 柿澤 卓<sup>(2)</sup>, 西川慶一<sup>(3)</sup>, 佐野 司<sup>(3)</sup>, 村上伸一<sup>(4)</sup>: 濃度勾配情報を利用した3次元CT画像からの高精度自動領域分割の試み, 日放技学誌 **62**(9), 1246, 2006.(日本放射線技術学会第34回秋期学術大会, 札幌) (1)東歯大・水病・放科,(2)口健臨・口外科,(3)歯放,(4)東京電機大・工
4. 山田清貴<sup>(1)</sup>, 山 満, 高久勇一朗<sup>(1)</sup>, 奥田克爾<sup>(2)</sup>, 柿澤 卓<sup>(1)</sup>, 加藤哲男<sup>(2)</sup>: O-ラジカル水(負電荷酸素原子)の口腔微生物に対する抗菌効果, 歯科学報 **106**(5), 446, 2006.(第282回東京歯科大学学会(総会), 千葉市) (1)口健臨・口外科,(2)微生物
5. Yamada,K.<sup>(1)</sup>, Yama,M., Takaku,Y.<sup>(1)</sup>, Kakizawa,T.<sup>(1)</sup>, Okuda,K.<sup>(2)</sup>, Kato,T.<sup>(2)</sup>: Antimicrobial activity of O- water against oral microorganisms, J Dent Res **86**(Special Issue A), #1135, 2007.(85th General Session & Exhibition of the IADR / AADR / CADR, New Orleans, USA) HRC5A01, CD-ROM (1)口健臨・口外科,(2)微生物

## 2. 眼 科

### プロフィール

#### 1. 教室員と主研究テーマ

教 授	ビッセン宮島弘子	多焦点眼内レンズ挿入後の視機能(A01-0791-2)
助 手	北村 奈恵	水晶体超音波乳化吸引術における前房内の灌流動態

#### 2. 成果の概要

##### 1) 多焦点眼内レンズ挿入後の視機能

眼内レンズ光学部の改良で遠方と近方の2点に焦点が合う多焦点眼内レンズが開発された。眼科において、この眼内レンズの導入により、眼鏡に依存しない良好な遠方および近方視力が得られ、患者の quality of vision、最終的には quality of life の向上が得られることが期待されている。多焦点眼内レンズ挿入後の視機能評価として、遠方、近方視力、コントラスト感度、瞳孔径の影響、焦点深度を測定した。また、眼鏡装用状態と自覚的な満足度を含めた質問形式の自己評価を行った。

屈折型と回折型において、単焦点眼内レンズに比較して、良好な近方視力が得られた。焦点深度曲線にて、両タイプの多焦点眼内レンズの特徴があらわれ、回折型は0Dと-3.0Dにはつきりしたピークが、屈折型では-3.0Dに滑らかなピークが認められた。回折型は瞳孔径の影響は少なく、屈折型では近方時の瞳孔径が大きい、年齢層の若い症例で良好な結果であった。自己評価は、非常に良好で、QOLの改善が期待された。今後、長眼軸長例、強度乱視例における視機能を検討していく予定である。

##### 2) 水晶体超音波乳化吸引術における前房内の灌流動態

白内障手術時に使用する、水晶体超音波乳化吸引装置においては、より小切開から安全に手術を可能にする開発が続いている。3mmの切開から約2mmの切開まで小さくなり、超音波発振法も従来の縦振動から torsional、いわゆる横振動とねじれを利用した方式が開発された。

実際の手術時に、超音波時間、灌流液使用量、創口からのリーク量、創口にかかる蓄積エネルギー量を測定した。Torsionalを用いた水晶体超音波乳化吸引術では、従来の発振方式と同等の灌流液の使用状態で、かつ創口への蓄積エネルギーが少なくすむことがわかった。今後、より安全な手術法をして期待される術式である。

#### 3. 研究活動の特記すべき事項

##### オーガナイザー

オーガナイザー	年月日	講演演題	学会・研究会名	開催地
ビッセン宮島弘子	2006. 10. 6	加齢と眼の屈折	第60回日本臨床眼科学会	京都市
ビッセン宮島弘子	2006. 10. 6	眼科医のための屈折矯正手術 アップデート	第60回日本臨床眼科学会	京都市
ビッセン宮島弘子	2007. 1. 26	屈折矯正手術の基本	第30回日本眼科学術学会総会	京都市
ビッセン宮島弘子	2007. 1. 26	各専門分野からみた屈折矯正手術	第30回日本眼科学術学会総会	京都市
ビッセン宮島弘子	2007. 1. 27	屈折矯正手術の検証	第30回日本眼科学術学会総会	京都市



シンポジスト

シンポジスト	年月日	演題	学会・研究会名	開催地
ビッセン宮島弘子	2006. 6. 16	RK, PRK, LASIK 手術後の IOL 手術.	第21回日本眼内レンズ屈折手術学会総会	東京都
ビッセン宮島弘子	2006. 6. 16	日本の屈折矯正手術の現状	第21回日本眼内レンズ屈折手術学会総会	東京都
ビッセン宮島弘子	2006. 6. 18	Micro-incision Co-axial Phaco	第21回日本眼内レンズ屈折手術学会総会	東京都
ビッセン宮島弘子	2006. 10. 6	調節の加齢変化に対する多焦点 IOL	第60回日本臨床眼科学会	京都市
ビッセン宮島弘子	2007. 1. 26	アジアにおける日本の屈折矯正手術の現状	第30回日本眼科手術学会総会	京都市
ビッセン宮島弘子	2007. 1. 27	Co-axial Micro Phoco のコツと注意点	第30回日本眼科手術学会総会	京都市

学会招待講演

講演者	年月日	演題	学会・研究会名	開催地
ビッセン宮島弘子	2006. 10. 12	白内障の新しい話題	愛知眼科医療研究会	名古屋市
ビッセン宮島弘子	2006. 11. 18	屈折矯正としての白内障手術	The IRSJ 2006	横浜市
ビッセン宮島弘子	2007. 1. 6	Current refractive market trends in Japan.	Japanese Cataract Surgical Advisory Council	Hawaii, U. S. A
ビッセン宮島弘子	2007. 3. 6	Challenge to Presbyopia	2007 Aspen Invitational Refractive Symposium	Colorado, U. S. A
ビッセン宮島弘子	2007. 3. 17	最新の白内障手術	東北眼科フォーラム	仙台市

4. 教育講演等教育に関する業績, 活動

教育講演等

講演者	年月日	演題	学会・研究会名	開催地
ビッセン宮島弘子	2006. 4. 8	白内障手術の進歩	第20回神奈川県・昭和大学藤が丘合同オープンカンファレンス	横浜市

## 論 文

1. Bissen-Miyajima,H. : In vitro behavior of ophthalmic viscosurgical devices during phacoemulsification, J Cataract Refract Surg **32**(6), 1026~1031, 2006. 原著 A01-0791-2
2. 大木伸一, ビッセン宮島弘子, 鈴木高佳, 浅賀理恵 : Wavefront guided LASIK において解析結果に度数調整した例の検討, 臨床眼科 **60**(7), 1223~1226, 2006. 総説 A01-0791-2

## 解 説

1. ビッセン宮島弘子 : 白内障手術アップデート 2006, あたらしい眼科 **4**(23), 423, 2006. A01-0791-2
2. Bissen-Miyajima,H. : Microcisional phacoemulsification, Cataract & Refractive surgery today **6**(9), 2006. A01-0791-2
3. Bissen-Miyajima,H. : Surgeons favor ease and outcomes of micro-coaxial surgery, EUROTIMES **11**, 2006. A01-0791-2
4. 鈴木高佳, ビッセン宮島弘子 : Epipolis Laser in situ keratomileusis(Epi-LASIK)の適応と現況, .眼科手術 **19**(2), 165~196, 2006. A01-0791-2
5. ビッセン宮島弘子 : 視機能を考えた眼内レンズ選択法, IOL&RS **20**, 209~212, 2006. A01-0791-2
6. ビッセン宮島弘子 : Iris Registration の実際.屈折矯正手術セミナー, あたらしい眼科 **23**, 761, 2006. A01-0791-2
7. ビッセン宮島弘子 : モデル眼を用いた多焦点眼内レンズの評価, あたらしい眼科 **23**, 1025, 2006. A
8. Bissen-Miyajima,H. : Micro-incision coaxial phacoemulsification, Highlights of Ophthalmology **34**(1), 4~5, 2006. A01-0791-2
9. ビッセン宮島弘子 : Phakic IOL の現状と展望, 日本の眼科 **77**, 663~664, 2006. A
10. 中村邦彦, ビッセン宮島弘子 : 米国眼内レンズの償還制度, IOL&RS **21**, 115~117, 2007. A01-0791-2
11. ビッセン宮島弘子 : 回折型眼内レンズの適応, あたらしい眼科 **24**(2), 147~150, 2007. A01-0791-2

## 単行図書

1. ビッセン宮島弘子(a-e): 著分担 :白内障手術 極小切開完全マスター (a)極小切開の将来性 24 頁,(b)coaxial 法でのコツと注意点 32 頁,(c)IOL はさらに挿入しやすくなるのか? 108 頁,(d)私の設定・coaxial 編 114 頁,(e)私の使うナイフ・coaxial 152 頁, メジカルビュー, 東京, 2006. 眼科インストラクションコース 9, A01-0791-2
2. Bissen-Miyajima,H.(a): 著分担 :Cataract and Refractive Surgery (a)Complications of Excimer Laser Surgery 101~111 頁, Springer, Germany, 2006. A01-0791-2

3. ビッセン宮島弘子(a): 著分担 :眼内レンズを科学する (a)多焦点眼内レンズ 68～69 頁, メディカル葵出版, 東京, 2006. A01-0791-2
4. ビッセン宮島弘子(a): 著分担 :眼科プラクティス(9)屈折矯正完全版 (a)clear lens extraction による強度近視・遠視治療 86～89 頁, 文光堂, 東京, 2006. A01-0791-2

## 学会抄録

1. Bissen-Miyajima,H., Hayashi,K.<sup>(1)</sup>, Taira,Y.<sup>(2)</sup> : Comparison of apodized diffractive multifocal intraocular lens and monofocal intraocular lens in a Japanese clinical trial :Comparison of apodized diffractive multifocal intraocular lens and monofocal intraocular lens in a Japanese clinical trial, 2006.(24th European Society of Cataract and Refractive Surgeons, 2006, England,London) A01-0791-2 (1)福岡県,(2)埼玉県
2. Bissen-Miyajima,H., Shimazaki,J.<sup>(1)</sup> : Ten-Year revolution in cataract surgery and surgical reconstruction of ocular surface in Steevens-Johnson syndrome :Ten-Year revolution in cataract surgery and surgical reconstruction of ocular surface in Steevens-Johnson syndrome, 2006.(24th European Society of Cataract and Refractive Surgeons, England,London) A01-0791-2 (1)市病・眼科
3. Bissen-Miyajima,H., Taira,Y.<sup>(1)</sup>, Ohnuma,K.<sup>(2)</sup> : Contrast analysis of pictures taken by model eye with refractive and diffractive multifocal intraocular lenses :Contrast analysis of pictures taken by model eye with refractive and diffractive multifocal intraocular lenses, 2006.(2006 Annual meeting of American Academy of Ophthalmology, U.S.A, Las Vegas) A01-0791-2 (1)埼玉県,(2)Faculty of Engineering. Chiba Univ.
4. Bissen-Miyajima,H. : Refractive surgery in Japan and Asia. :Refractive surgery in Japan and Asia. , 2006. (20. Kongress der Deutschsprachigen Gesellschaft für Intraokularlinsen- Implantation und refraktive Chirurgie, Germany,Heidelberg) A01-0791-2
5. ビッセン宮島弘子 : RK,PRK,LASIK 手術後の IOL 手術, 第 21 回日本眼内レンズ屈折手術学会総会抄録集, 21, 2006.(第 21 回日本眼内レンズ屈折手術学会総会, 東京) A01-0791-2
6. ビッセン宮島弘子 : 調節の加齢変化に対する多焦点 IOL, .第 60 回日本臨床眼科学会抄録集, 31, 2006.(第 60 回日本臨床眼科学会, 京都市) A01-0791-2
7. ビッセン宮島弘子 : Micro-incision Co-axial Phaco, 第 21 回日本眼内レンズ屈折手術学会総会抄録集, 34, 2006.(第 21 回日本眼内レンズ屈折手術学会総会, 東京) A01-0791-2
8. ビッセン宮島弘子 : 日本の屈折矯正手術の現状, 第 21 回日本眼内レンズ屈折手術学会総会, 40, 2006.(第 21 回日本眼内レンズ屈折手術学会総会, 東京) A01-0791-2
9. 中村邦彦, ビッセン宮島弘子, 大木伸一, 大沼一彦<sup>(1)</sup> : 白内障手術前後の瞳孔, 第 21 回日本眼内レンズ屈折手術学会総会抄録集, 42, 2006.(第 21 回日本眼内レンズ手術学会総会, 東京) A01-0791-2 (1)千葉大・工・情報画像
10. 鈴木高佳, ビッセン宮島弘子, 中村邦彦, 大木伸一 : 非球面回折多焦点眼内レンズ挿入後の視機能, 第 21 回日本眼内レンズ屈折手術学会総会抄録集, 51, 2006.(第 21 回日本眼内レンズ屈折手術学会総会, 東京) A01-0791-2

11. 吉野真未, ビッセン宮島弘子, 北村奈恵, 大木伸一 : 各種粘弾性物質における超音波水晶体乳化吸引術後の角膜内皮側残留量, 第 60 回日本臨床眼科学会抄録集, 57, 2006.(第 60 回日本臨床眼科学会, 京都市) A01-0791-2
12. ビッセン宮島弘子, 林研<sup>(1)</sup>, 平容子<sup>(2)</sup> : シングルピースアクリソフapodized回折型多焦点と単焦点眼内レンズ挿入成績の比較, 第 60 回日本臨床眼科学会抄録集, 60, 2006.(第 60 回日本臨床眼科学会, 京都市) A01-0791-2  
(1)福岡県,(2)埼玉県
13. 中村邦彦, ビッセン宮島弘子, 大木伸一 : 非球面回折型多焦点眼内レンズと単焦点眼内レンズの比較, 第 60 回日本臨床眼科学会抄録集, 60, 2006.(第 60 回日本臨床眼科学会, 京都市) A01-0791-2
14. ビッセン宮島弘子 : 水晶体超音波乳化吸引時における各種粘弾性物質の前房内動態, 第 21 回日本眼内レンズ屈折手術学会総会抄録集, 76, 2006.(第 21 回日本眼内レンズ屈折手術学会総会, 東京) A01-0791-2
15. 北村奈恵, ビッセン宮島弘子, 中村邦彦 : OzilTMTorsional ハンドピースを用いた水晶体超音波乳化吸引術, 第 30 回日本眼科手術学会総会抄録集, 90, 2006.(第 30 回日本眼科手術学会総会, 京都市) A01-0791-2
16. 吉野真未, ビッセン宮島弘子, 平容子<sup>(1)</sup>, 大橋裕一<sup>(2)</sup> : 白内障周術期における結膜囊および術中眼表面灌流液の細菌培養, 第 30 回日本眼科手術学会総会抄録集, 91, 2006.(第 30 回日本眼科手術学会総会, 京都市) A01-0791-2 (1)埼玉県,(2)愛媛大・眼
17. ビッセン宮島弘子 : IOL による refractive surgery update, 第 21 回日本眼内レンズ屈折手術学会総会抄録集, 94, 2006.(第 21 回日本眼内レンズ屈折手術学会総会, 東京) A01-0791-2
18. ビッセン宮島弘子 : 白内障手術の進歩, 第 20 回神奈川県・昭和大学藤が丘合同オープンカンファレンス, 2006.(第 20 回神奈川県・昭和大学藤が丘合同オープンカンファレンス学会抄録集, (横浜市)) A01-0791-2
19. 北村奈恵, ビッセン宮島弘子, 中村邦彦 : ウルトラスリーブを用いた水晶体超音波乳化吸引術における灌流量とリーク量, 第 60 回日本臨床眼科学会抄録集, 2006.(第 60 回日本臨床眼科学会, 京都市) A01-0791-2
20. 大木伸一, ビッセン宮島弘子, 中村邦彦 : Wavefront-guided LASIK による乱視矯正, 第 60 回日本臨床眼科学会抄録集, 152, 2006.(第 60 回日本臨床眼科学会, 京都市) A01-0791-2
21. ビッセン宮島弘子 : 術後眼内炎ゼロ作戦 ローマは一日にしてならず, 第 60 回日本臨床眼科学会抄録集, 292, 2006.(第 60 回日本臨床眼科学会, 京都市) A01-0791-2
22. ビッセン宮島弘子 : アジアにおける日本の屈折矯正手術の現状, 第 30 回日本眼科手術学会総会抄録集, 7, 2007.(第 30 回日本眼科手術学会総会, 京都市) A01-0791-2
23. ビッセン宮島弘子 : 極小切開白内障手術, 第 30 回日本眼科手術学会総会抄録集, 19, 2007.(第 30 回日本眼科手術学会総会, 京都市) A01-0791-2
24. Bissen-Miyajima,H. : Current refractive market trends in Japan :Current refractive market trends in Japan, 2007.(Japanese Cataract Surgical Advisory Council, Hawaii, U.S.A) A01-0791-2

25. Bissen-Miyajima, H. : Challenge to Presbyopia :Challenge to Presbyopia, 2007.(2007 Aspen Invitational Refractive Symposium, Colorado U.S.A) A01-0791-2
26. 中村邦彦, ビッセン宮島弘子, 平容子<sup>(1)</sup>, 小野政祐<sup>(1)</sup> : シングルピースアクリソフapodized回折型多焦点眼内レンズ挿入眼の術後早期視機能, 第 30 回日本眼科手術学会総会抄録集, 2007.(第 30 回日本眼科手術学会総会, 京都市) A01-0791-2 (1)埼玉県
27. ビッセン宮島弘子 : 多焦点レンズから考えるRefractive Cataract Surgery, 第 30 回日本眼科手術学会総会抄録集, 2007.(第 30 回日本眼科手術学会総会, 京都市) A01-0791-2
28. ビッセン宮島弘子 : 最新の白内障手術, 東北眼科フォーラム抄録集, 2007.(東北眼科フォーラム, 仙台市) A01-0791-2
29. ビッセン宮島弘子 : 最新の角膜屈折矯正手術とその展望, 第 31 回角膜カンファレンス第 23 回日本角膜移植学会抄録集, 131, 2007.(第 31 回角膜カンファレンス第 23 回日本角膜移植学会, 宮崎市) A01-0791-2
30. ビッセン宮島弘子 : エキシマレーザーの最新情報, 第 31 回角膜カンファレンス第 23 回日本角膜移植学会抄録集, 132, 2007.(第 31 回角膜カンファレンス第 23 回日本角膜移植学会, 宮崎市) A01-0791-2

### 3. 内 科

#### プロフィール

##### 1. 教室員と主研究テーマ

助教授 仁科 牧子 パーキンソン病における認知機能

##### 2. 成果の概要

パーキンソン病においては、その病期にかかわらず様々な認知機能障害が生じることが認められている。

今までにYahr II度のパーキンソン病患者で人の顔の認知過程を視覚誘発磁場の測定により検討し、正常群に比し課題遂行時のMEG応答の潜時は有意差なかったものの、振幅は脳全体にわたって有意に大きくなっていることを報告した。特に後頭葉に認められる早期の応答は大きく、後期処理になればなるほど、つまり前頭葉に近づくほど正常との解離は小さくなった。パーキンソン病では右後頭葉の血流低下が認められており、皮質下における神経ネットワークの異常を皮質で代償している可能性がある。しかし、治療の影響も否定できず、現在は病初期の未治療の段階での検討を考慮中である。

## プロシーディングス

1. Okada,S.<sup>(1)</sup>, Nishina,M., Morishita,T.<sup>(1)</sup> : The Role of Granulysin in Muscle Fiber Injury of Polymyositis, Annals of Neurology **60**(S10), S40, 2006.(1996 Annual Meeting of American Neurological Association, Chicago, USA) M-21 細形研, 細生研 (1)市病・内科
2. Okada,S.<sup>(1)</sup>, Neomoto,H.<sup>(2)</sup>, Kurihara,T.<sup>(2)</sup>, Nishina,M., Morishita,T.<sup>(1)</sup> : The Role of Granulysin in Muscle Fiber Injury in Polymyositis, 8th International Congress of Neuroimmunology, 203~208, 2006.(8th International Congress of Neuroimmunology, Nagoya) 細形研,細生研 (1)市病・内科,(2)東邦・医・神内

## その他

1. 森下鉄夫<sup>(1)</sup>, 岡田聡<sup>(1)</sup>, 野川茂<sup>(1)</sup>, 鈴木則宏<sup>(2)</sup>, 仁科牧子, 古和久幸<sup>(3)</sup> : 麦角型アゴニストからプラミペキソールへの切換え方法の検討, 第47回日本神経学会総会報告, 2006. 脳科学研 (1)市病・内科,(2)慶大・医,(3)北里大・医